

# サクラサク 入試分析 2024 秋

地理・世界史・日本史

2024年度に行われた共通テスト・国公立  
大学入試・私立大学入試について、学校法人  
河合塾の先生方に分析していただきました。

## 目次

2024年度 大学入学共通テストの出題傾向と今後の入試動向	学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科 …… p. 2-3
【地理】 2024年度 入試の出題傾向	河合塾講師 佐藤裕治 …… p. 4-11
【世界史】 2024年度 大学入学共通テスト世界史Bの分析	河合塾講師 井上徳子 …… p.12-13
2024年度 国公立大学入試	河合塾講師 山内秀朗 …… p.14-15
2024年度 私立大学入試	河合塾講師 坂本新一 …… p.16-17
【日本史】 2024年度 大学入学共通テスト日本史Bの分析	河合塾講師 中垣秀作 …… p.18-19
2024年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析	河合塾講師 平野岳美 …… p.20-23

本誌は学校法人河合塾様にご協力いただきました。

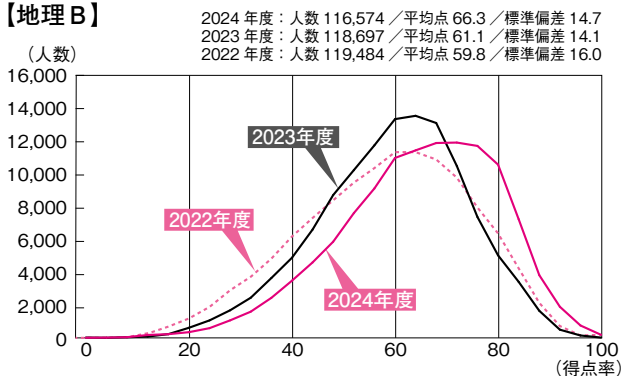
# 2024年度 大学入学共通テスト の出題傾向と今後の入試動向

学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科

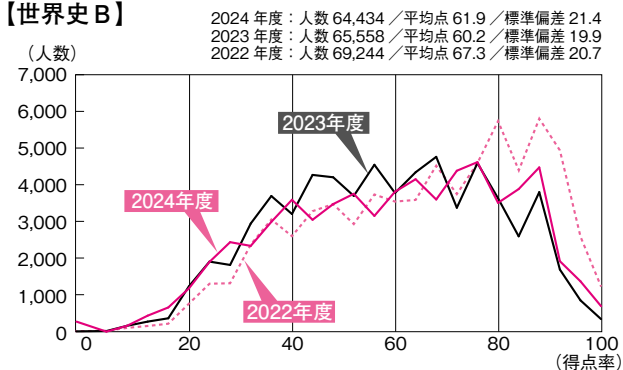
## 1 はじめに

2024年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）は、大学入試センター試験の後継として4年目の実施となった。志願者数は491,914人であり、昨年度より20,667人減少し、2019年度より減少し続けている。科目別受験者（本試験）は、地理B 136,948人、世界史B

### 【地理B】



### 【世界史B】



### 【日本史B】

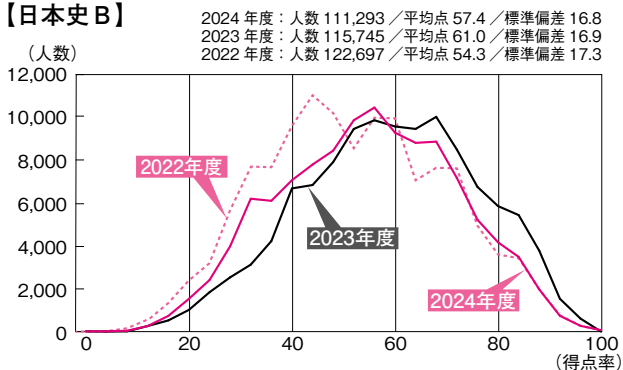


図1 共通テストの年度別得点分布  
(河合塾共通テストリサーチによる)

75,866人、日本史B 131,309人であった。河合塾共通テストリサーチによる各科目の得点分布は図1のとおりである。

## 2 2024年度共通テストの出題傾向

地理Bは、共通テストの過去3か年で定着しつつあった、複数の資料を参照させる組み合わせ形式の問題が減少し、3つの指標や国・地域の組み合わせを選ぶ単純な形式の問題が中心となったため、やや易化した。新傾向の形式の問題は見られなかった。すべての問題に図や表が使用されており、思考力とともに短時間に判断する情報処理能力が試されている。出題分野については大きな変化はなく、ほぼ全分野（系統地理的考察分野、地誌的考察分野、地図と地理的技能の分野）からまんべんなく出題されている。

世界史Bは、すべての大問に資料（史料文・グラフ・図版・地図）の読み取り問題があったが、話の方向性を見極めなくてはならない会話文が昨年より大幅に減少し、読み取りやすい問題となったことなどからやや易化した。問題形式については昨年同様、資料や会話文など複数の材料から必要な情報を読み取り、総合的に判断する問題が多い。第2問では共通テスト本試験では初めて連動式の問題が出題された。問4で選んだ解答によって問5の解答が変わるため、それぞれの選択肢との関連を考察する必要がある。また、地域については欧米史が多く出題され、分野では政治史が多いが、社会経済史・文化史も組み込まれて出題されている。時代については、昨年同様に前近代史からの出題が多いが、第二次世界大戦後からも3問出題された。

日本史Bは、史料の読解問題がいっそう増加したうえ、複雑な組み合わせの設問も出題されており、やや難化した。第3問と第6問で、3つの史料とその内容について述べた2つの文章との組み合わせを選択させる新形式の問題が出題された。また、第1問を除いて高校生の会話や学習・探究活動が素材とされ、昨年に引き続き

高校生の「主体的な学び」をふまえた場面設定がなされている。個々の設問では、史料・図版・統計など多様な資料を用いた出題が見られたが、教科書などで扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業などで学んだ知識を関連づけることで正解できる問題となっている。全体としては、受験生の歴史事象に対する理解の質や思考力・判断力を幅広く問う配慮がなされている。分野については、外交・文化からの出題が増加し、政治からの出題が減少した。時代では、高度成長終焉後が昨年に引き続き扱われなかった。

3 今後の入試の動向

◆新課程における共通テスト

地理では、新課程の「地理総合」と『地理総合、地理探究』は、旧課程の地理 A と地理 B にほぼ対応している。地理総合で扱われている「地図と地理情報システム」そのものをテーマとした問題はこれまで地理 A だけで出題されていたが、これからは『地理総合、地理探究』でも出題されると思われる。共通テストに移行してからの4年間で全体の傾向に大きな変化は見られず、新課程に移行しても同様の傾向が続くと考えられる。共通テストでは各設問に図表が用いられるようになっており、基礎知識に加え問題文の読解や図表を読み取る力が求められている。

歴史では、新課程の「歴史総合」は18世紀以降の日本を含む世界の歴史を扱う。普段の学習を進める際に、18世紀以降については同時期の日本や世界がどのような状態であったか確認したり、また世界の動きが日本にどのような影響を与えていたか確認したりしておきたい。

世界史は、共通テストになって以降、用語そのものを問うのではなく、できごとの内容や因果関係、背景、影響などを問う出題が増加している。できごとの「タテのつながり」「ヨコのつながり」を意識した学習を心がけるとよいだろう。2024年度の本試験は資料や資料の説明文など複数の材料から必要な情報を読み取り、習得した知識と組み合わせながら総合的に判断する問題が多く見られたが、これは2022年11月に公表された令和7年度大学入学共通テスト『歴史総合、世界史探究』の試作問題と類似する方向性であり、こうした出題は今後も継続すると予想される。

日本史は、史料・図版・略系図・統計表など、多様な資料を利用しての出題は継続されるだろう。2024年度の本試験でも、できごとの因果関係を正しく理解する力、

歴史名辞の意味を正確に理解する力、史料や統計表などの資料を読解できる力などが求められている。また、高校生の会話や学習・探究活動が引き続き素材として扱われており、こうした場面設定の読解が必要となる問題は今後も出題されると思われる。

なお、新課程における共通テストで2科目を選択する場合、同時選択が不可能な組み合わせがあるので改めて確認しておきたい（表1）。

表1 2科目を選択する場合の組み合わせ一覧表

(解答順は順不同)	(b)					(a) [地理総合/歴史総合/公共] (3つのうち2つを解答)		
	[地理総合、 地理探究]	[歴史総合、 日本史探究]	[歴史総合、 世界史探究]	[公共、倫理]	[公共、政治・ 経済]	[地理総合と 歴史総合]	[地理総合と 公共]	[歴史総合と 公共]
(b)	[地理総合、 地理探究]	○	○	○	○	×	×	○
	[歴史総合、 日本史探究]	○	○	○	○	×	○	×
	[歴史総合、 世界史探究]	○	○	○	○	×	○	×
	[公共、倫理]	○	○	○	×	○	×	×
	[公共、政治・ 経済]	○	○	×	○	○	×	×

○は選択可能な組み合わせ、×は選択不可能な組み合わせ  
(大学入試センター「令和7年度大学入学共通テストについての説明資料(令和5年7月掲載)」p.20より作成)

◆国公立大二次試験・私立大入試

国公立大学や私立大学の大学独自試験の出題範囲については、「総合科目」＋「探究科目」5単位分の出題範囲とする大学と、「探究科目」のみ3単位分の出題範囲とする大学に二分されている。

同じ大学であっても、地理では出題範囲に「地理探究」の基礎となる「地理総合」を含む一方、世界史および日本史では、日本と世界の近現代を扱うことになる「歴史総合」は含まないとする大学も多い。私立大学では今年に入って出題範囲の変更・補足が発表されているケースも散見されるため、最新の情報を確認しておきたい。

新課程入試元年である2025年度入試では各大学で旧課程生への配慮が公表されているものの、2026年度以降の大学独自試験において、近現代における日本と世界の相互関連の理解を問う「歴史総合」がどの程度出題されるのか、注視していく必要がある。

出題傾向としては、国公立大学の二次試験では、ほとんどの大学で論述形式が採用されており、これまでも思考力・判断力を要する出題がなされているため、現在の出題傾向と大きく変わらない可能性が高い。一方、知識を中心に問う傾向の強い私立大入試では、資料を分析・考察しながら、課題解決の力をはかったり、因果関係や時代概観を把握しているかを問うたりする問題が増加する可能性がある。

# 2024年度 入試の 出題傾向

## 地理

学校法人 河合塾 地理講師 佐藤 裕治

### 1 はじめに

2024年度入試は地理A、地理Bでの最後の出題の年であったが、その問題の分析から来年度以降の新しい課程のもとでの入試の傾向を読み取ってみたい。4年目となった共通テストは、「地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察する」という問題の作成方針に基づき、複数の資料から思考力・判断力を試す形式は定着したといえる。来年度以降の共通テストは『地理総合、地理探究』か『地理総合、歴史総合、公共』のいずれかを選択しなければならないので、地理総合は必須となる。また、国公立大学二次試験や私立大学個別入試では、入試科目に地理総合を含まない大学もあるが、地図と地理情報や防災など地理総合の学習内容を盛り込んだ出題は可能と思われる。

### 2 共通テストの出題傾向

#### ◆出題分野と全体の難易度

地理B（本試）は大問5題で、第1問「自然環境と自然災害」、第2問「資源と産業」、第3問「都市と生活文化」、第4問「地誌」、第5問「地域調査」と、共通テストに移行してから大きな変化はなかった（表1）。第2問は、鉄鋼業を手がかりに製造業の高付加価値化や新しい取り組みなどが、地理の授業の探究という場面設定で出題された。第4問の地誌は環太平洋という広範な地域を扱ったことで、特定の地域について多様な事象を相互に関連づける地誌的考察はやや希薄であった。第5問の地域調査は島根県浜田市を取りあげ、多様な資料を扱っているが、地域についての知識がなくても判読が可能で、取り組みやすい内容であった。

全体のマーク数、問題冊子のページ数、図表、写真などの資料の数（表2）はこれまでとほぼ変わらないが、複数の資料を判読する組み合わせ解答がやや減ったこともあり、全体としては難易度はやや低下し、地理歴史、

公民の科目の中では平均点が最も高く、高得点者の割合も過去3年で最も高かった（本誌p.2）。

河合塾の再現答案によるデータ（表3）によれば、正答率が30%を下まわる問いが3問ある一方、正答率が

表1 地理B（センター試験本試・共通テスト本試）  
出題分野別一覧

	2020	2021		2022	2023	2024
		第1日程	第2日程			
地図と地理的技能						
地理情報と地図				○		
地図と地域調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎
自然環境	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地形	○	○	○	○	○	○
気候	○	○	○	○	○	○
植生・土壌	○	○	○	○		
自然災害	○	○	○	○	○	○
環境問題		○	○	○	○	
資源と産業	◎	◎	◎	◎	◎	◎
農業	○	○	○	○	○	
林業・水産業	○	○		○	○	
エネルギー・鉱産資源	○			○		○
資源・エネルギー問題				○		
工業	○	○	○	○		○
第3次産業	○	○	○			
交通・通信	○	○	○	○	○	○
貿易・直接投資・援助	○	○	○	○	○	
人口、村落・都市	◎	◎	◎	◎	◎	◎
人口	○	○	○	○	○	
村落・都市	○	○	○	○	○	○
都市・居住問題	○	○	○	○	○	○
生活と文化、民族・宗教						
文化・衣食住	○					
言語・宗教	○					○
民族・国家		○				
地誌	◎	◎	◎	◎	◎	◎
比較地誌	●			○	○	○
アジア	●		●		●	
アフリカ						
ヨーロッパ						
C I S						
北アメリカ		●				○
南アメリカ	●			●		○
オセアニア	●			○		○
日本						○
複合地域						●
平均点	66.4	60.1	62.7	59.0	60.5	65.7

◎大問のテーマ ●地誌の大問で取りあげられた地域 ○小問のテーマ・地域



表2 共通テストの解答形式と素材形式

	地理A					地理B				
	センター試験	共通テスト				センター試験	共通テスト			
	2020 年	2021 年*5	2022 年	2023 年	2024 年	2020 年	2021 年*5	2022 年	2023 年	2024 年
正誤文判定*1	11	9	8	8	6	7	7	5	5	7
組み合わせ解答	12	18	20	18	20	11	20	19	19	16
図 (内地形図*2)	22 (2)	24 (4)	29 (2)	26 (2)	30 (4)	28 (1)	27 (2)	31 (1)	32 (1)	32 (1)
表	3	4	4	4	2	8	5	6	4	3
写真*3	3 (9)	8 (13)	5 (9)	8 (18)	3 (7)	1 (1)	3 (7)	2 (4)	2 (3)	3 (8)
ページ数*4	28	32	32	32	32	34	34	34	34	34
マーク数	34	30	30	31	30	35	32	31	31	30
平均点	54.51	59.98	51.62	55.19	55.75	66.35	60.06	58.99	60.46	65.74

図・表・写真の数は、問題中のそれぞれの番号の合計に、資料として示されたものを加えた。  
\* 1 組み合わせ形式の正誤文判定を含む。\* 2 地勢図、地理院地図を含む。\* 3 かつこ内は写真の枚数を示す。\* 4 空白のページは含まない。  
\* 5 第 1 日程。

表3 再現答案による設問別正答率（河合塾調べ）  
（2024年度大学入学共通テスト地理B 本試）

問題番号	解答番号	正答率	問題番号	解答番号	正答率
第 1 問	1	42.2	第 4 問	19	26.9
	2	69.4		20	85.5
	3	55.1		21	69.2
	4	18.2		22	76.9
	5	65.9		23	59.2
	6	24.9		24	75.9
	小計	45.6		小計	63.8
第 2 問	7	89.7	第 5 問	25	49.6
	8	38.3		26	77.6
	9	71.1		27	65.9
	10	72.3		28	93.8
	11	87.8		29	75.2
	12	96.1		30	94.3
	小計	75.5		小計	75.6
第 3 問	13	93.1	合計		68.1
	14	88.7	注) サンプル数は 2173 人 (現役生 1756 人、高卒生 417 人)。 サンプルの平均点は 68.1 で、 地理 B 受験生全体の平均点 (65.7) より 2.4 点高い。 大問ごとの小計、合計は得点率を 示す。		
	15	74.6			
	16	69.4			
	17	85.9			
	18	66.8			
	小計	80.2			

90%を超える問いも 4 問あり、平易な問題と難問を組み合わせることで平均点のバランスをとっていると思われる。4 択にもかかわらず正答率が 18.2%という極端な難問や、最上位層（後述の S レベル）でも正答率が 60%を下まわる問いもあり、満点は取りにくかったと思われるが、例年みられた「世界史 B や日本史 B に比べると地理 B は平均点が高くても高得点を取りにくい」という科目間の不公平感はやや薄らいだといえる。

大問別でみるとやや得点率のばらつきがあり、第 1 問の「世界の自然環境と自然災害」は気象に関する問 4、問 6 の正答率が低かったこともあり、大問の得点率は 45.6%と最も低かった。一方、大問の得点率が 80.2%と最も高かったのが第 3 問の「都市と生活文化」で、日本の都市に関する問 1、問 2 では取りあげられた地域がイメージしやすいように配慮されていることもあり、判定は容易で正答率が高かった。第 2 問の「資源と産業」、第 5 問の「地域調査」も得点率は 75%を超えていた。

とくに日本の資源や産業をめぐる新しい取り組みに関する第 2 問 問 6 の正答率は 96.1%と全問中最高で、間違えようのない問題であった。第 4 問の「環太平洋の地域」では、知識が不十分であったと思われる問 1 の海底の断面図に関する問題や、見慣れない図で判読に手間どったと思われる問 5 の貿易に関する問題は正答率がやや低く、大問の得点率は 63.8%と全体の正答率に近く標準的であった。

◆正答率の低い問題からみた受験生の弱点

共通テスト地理 B（本試）で正答率が最も低かった第 1 問 問 4（例題 1）の正答率は 18.2%で、ムンバイを③と判断したものが多かった。日照時間については教科書でもほとんど扱われておらず、多くの受験生はその正確な意味を理解していないと思われる。日照時間は昼の時間と関係すると考え、最も低緯度にあり、夏と冬の昼の時間の差が小さい③をムンバイと考えた受験生が多かった（表 4）。図には東京が示されており、東京は昼の時間の長い 7 月より昼の時間の短い 1 月の方が日照時間は長いことが読み取れ、日照時間は昼の時間の長さではなく、晴れる日が多いかどうかの影響していることを判断する手がかりが与えられているにもかかわらず、それには気づかなかったようである。日照時間の季節変化に関しては 2013 年度センター試験地理 B 第 6 問 問 2 でも、徳島市、会津若松市、宮古島市の月別日照時間のグラフを示し、その正しい組み合わせを答えさせる問題が出題されたが、多くの受験生は冬でも日照時間が長いものを最も低緯度にある宮古島市と判断し、正答率はわずか 11.9%であった。なお今回は、全体の正答率は低かったものの、レベル別にみると、最上位層の S レベルとそれにつぐ A レベル、B レベルでそれぞれ正答率は 20 ポイント以上開いており（表 5）、とくに上位層の識別力にすぐれた問題であった。

ついで正答率が 24.9%と 2 番目に低かったのが第 1 問 問 6（例題 2）で、日本国内の気象観測項目の最大

記録上位 20 位までの地点の分布図で、最高気温、最大風速、日降水量の組み合わせを答えさせるものであった。選択肢のマーク率（表 6）をもとに各項目ごとの正答率を求めると、最大風速は 44.2%、日降水量は 38.8%、最高気温は 36.2%で、最高気温の正答率が最も低かった。近年は関東内陸や東海内陸の記録的猛暑が報道されることが多く、ツを最高気温と判断するのは難しくはなかったと思われたが、新潟県にも多いことが判断を鈍らせたようである。フェーン現象による日本海側の異常高温はあまり知られていないと思われる。気候区分や気候の成因などに比べ、教科書での記載や出題例も少ない身近な地域での気象現象の方が受験生にとっては難しいのかもしれない。共通テストでは「社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する」ことが重視されており、このような日本の気象に関しても防災などに関連する事象として関心をもって情報に接することが求められている。

◆複数の資料から思考力を試す問題

共通テスト地理 A 第 1 問 問 4（例題 3）は「地図の読み取りと活用」というテーマで出題されたもので、3 地域の地理院地図から土地利用の特徴を判読し、それぞれの地域の 5 月、8 月、11 月の光合成の活発度を示すグラフとの組み合わせを答えるもので、市街地は年間を通して光合成の活発度が低いことからク、水田は作物の成長期に光合成の活発度が高くなることからキ、森林

《正答率の低い問題》

表 4 共通テスト地理 B 第 1 問 問 4 4 例題 1 のマーク率

	①	②	③	④
上位層	8.5	15.7	44.2	31.5
中位層	14.8	25.8	47.5	11.7
下位層	17.7	26.8	47.3	7.8
全体	13.1	22.2	46.2	18.2

※偏差値：上位層 55.0 以上、中位層 45.0 ～ 54.9、下位層 44.9 以下。  
※赤字が正解。

表 5 共通テスト地理 B 第 1 問 問 4 4 例題 1 のレベル別正答率

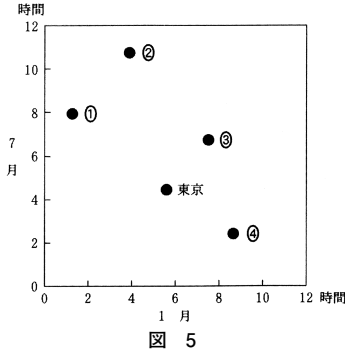
	レベル	偏差値	正答率
上位層	S	65.0 ～	62.8
	A	60.0 ～ 64.9	40.6
	B	55.0 ～ 59.9	19.0
中位層	C	50.0 ～ 54.9	12.8
	D	45.0 ～ 49.9	10.1
下位層	E	40.0 ～ 44.9	5.9
	F	～ 39.9	10.0

表 6 共通テスト地理 B 第 1 問 問 6 6 例題 2 のマーク率

	①	②	③	④	⑤	⑥
上位層	18.3	12.0	15.3	4.4	37.0	13.0
中位層	27.6	14.5	22.2	5.7	18.7	11.0
下位層	32.9	16.2	20.9	5.3	15.6	9.1
全体	25.3	13.9	19.3	5.2	24.9	11.3

■例題 1 共通テスト地理 B 本試：第 1 問 問 4 4

問 4 世界の各都市の日照時間は、都市が位置する緯度や気候によって異なる。次の図 5 は、いくつかの都市における 1 月と 7 月の 1 日当たりの日照時間を示したものであり、①～④は、オスロ、シドニー、ムンバイ（ボンベイ）、ローマのいずれかである。ムンバイに該当するものを、図 5 中の①～④のうちから一つ選べ。 4



統計年次は、東京、オスロ、シドニー、ローマが 1961 ～ 1990 年の平均値、ムンバイが 1971 ～ 1990 年の平均値。  
World Meteorological Organization の資料により作成。

■例題 2 共通テスト地理 B 本試：第 1 問 問 6 6

問 6 次の図 7 は、日本国内の 1976 年から 2021 年における、いくつかの気象観測項目の最大記録\*が上位 20 位までの地点を示したものであり、凡例タ～ツは、最高気温、最大風速、日降水量のいずれかである。項目名とタ～ツとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 6



	①	②	③	④	⑤	⑥
最高気温	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
最大風速	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
日降水量	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

は地図から針葉樹が多いことが読み取れ、常緑樹なら年間を通して光合成の活発度が高いと判断できる（正解 ⑥）。基本的な仕組みがきちんと理解できていれば難しい問題ではないが、地形図から景観の季節変化を読み取り光合成の活発度の季節変化と結びつけるには思考力が必要であり、よく考えられた問題である。来年度以降の共通テストの地理総合の問題ではこのような出題が予想される。

3 国公立大二次・私大の出題傾向

◆初見の資料から思考力と表現力を問う

国公立大学の中でも東京大学や一橋大学は、知識よりは思考力をためそうとする問題が多く、受験生にとっては初めて見るような資料をもとに限られた時間の中で、

問4 衛星画像の分析により、光合成の活発度\*を調べることができる。次の図4は、日本のある自治体のいくつかの地区を示した地理院地図である。また、後の図5中のカ〜クは、図4中のD〜Fのいずれかの地点における5月、8月、11月の光合成の活発度を示したものである。D〜Fとカ〜クとの正しい組合せを、後の①〜⑥のうちから一つ選べ。 4

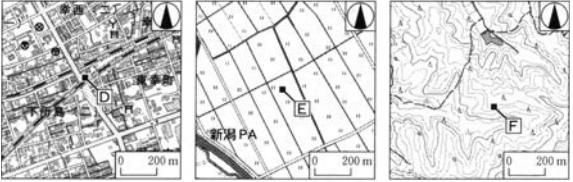


図4 地理院地図により作成。

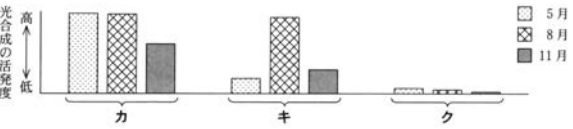


図5 USGSの資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
D	カ	カ	キ	キ	ク	ク
E	カ	ク	カ	ク	カ	キ
F	ク	キ	ク	カ	キ	カ

資料の示す意味を読み取り、設問内容に対して的確に表現する力が問われ、難問ではあるが工夫された問題が多い。

東京大学第1問設問Aは、乳をそのまま飲用できるかどうかにかかわる乳糖耐性を持つ人の割合が、地域によって異なることを示す分布図をもとに、その背景を自然環境や伝統的農牧業や作物の栄養特性から考えさせたり、乳糖耐性が低いにもかかわらず乳製品の利用が多いモンゴルについて、その加工の方法を答えさせている。初見でも資料の意味を考えることができれば解答は可能で、思考力をはかるよく工夫された問題である。

一橋大学Ⅲ（例題4）は、東京都市圏パーソントリップ調査をもとに、人の移動や生活の変化、公共交通機関利用の違いや交通システムの抱える課題や解決策を考えさせる問題である。受験生は見たことのない資料に戸惑うが、資料の意味を的確に読み取り、若者はオンラインショップの利用やSNSの普及などにより外出率が低下し、高齢者は病院通いなどにより外出率が上昇していることや、最近の公共交通での運転手不足など、身近に生じている生活行動の変化や社会問題に、日常からきちんとアンテナを張って考えることができていれば、正解は可能である。一橋大学の「求める学生像」には「社会が直面する課題に関心をもつ」ことがあげられており、入試問題にも大学のアドミッションポリシーが明確に示されている。

◆探究学習の導入につながる工夫

オリンピックが開催されるとオリンピックにからめた

図Ⅲ-1は出所を参考に帝国書院作成

パーソントリップ調査は、人（パーソン）の1日の移動（トリップ）を把握する調査であり、将来のまちづくりや交通計画などを検討するための基礎資料を得ることを目的としている（図Ⅲ-1）。特に東京都市圏（東京都（島しょ部を除く）、神奈川県、埼玉県、千葉県）の全域および茨城県南部）では、10年に一度の間隔で実施されている。

また、こうした人の移動に関するデータは、地理空間情報との連携による活用が期待されている。政府は地理空間情報活用推進基本計画を策定している。産学官民が連携した多様なサービスを提供することにより、<sup>(1)</sup>交通分野においても喫緊の課題に対して、地理空間情報を活用した豊かな暮らしの実現を目指している。

図Ⅲ-1 トリップの概念図

注1：トリップ（トリップ数）とは、人がある目的をもって、出発地から到着地へと移動する単位のこと、1回の移動で複数の交通手段を経由しても1トリップと数える。なお、出発地は、自宅や勤務先などの場合もある。

注2：出発地と到着地（目的地）を、この調査ではどちらもトリップエンドとよぶ。

出所：東京都市圏交通計画協議会「東京都市圏パーソントリップ調査（第6回）」より作成。

問1 表Ⅲ-1について、次の年齢階層3区分、①19歳以下、②20歳〜39歳、③65歳以上、それぞれの調査結果が示す傾向を要約しなさい。解答は①…②…③…としなさい。続けて、その傾向がもたらした生活スタイルの変容について、説明しなさい。なお、外出率=G、1人1日当たりのトリップ数=Tと略してもよい。（150字以内）

問2 表Ⅲ-2中の（ア）に該当する政令指定都市名を答えなさい。1マス分、東京都市圏における公共交通機関の利用が多い地域と少ない地域では、それぞれ人の移動をめぐってどのような課題があるか説明しなさい。その際、表Ⅲ-2中のいくつかの地域を比較しながら答えなさい。（125字以内）

問3 下線部(1)について、交通システムが抱える喫緊の課題を言及し、地理空間情報の活用やモビリティ・アズ・ア・サービス（MaaS）の導入によって、どのような効果が期待できるか論じなさい。（125字以内）

注：モビリティ・アズ・ア・サービス（MaaS）とは、情報通信技術（ICT）を最大限に活用して、電車やバス、タクシーなどあらゆる公共交通機関の運行を効率化するものである。

表Ⅲ-1 東京都市圏の年齢階層別外出率および1人1日当たりのトリップ数の推移

年齢（歳）	G：外出率（％）				T：1人1日当たりのトリップ数			
	1988年	1998年	2008年	2018年	1988年	1998年	2008年	2018年
85～	18.9	25.4	35.0	33.6	2.30	2.33	2.45	2.44
80～84	32.6	40.1	53.6	51.8	2.42	2.46	2.69	2.68
75～79	43.6	52.3	65.2	60.5	2.53	2.58	2.85	2.79
70～74	50.6	61.7	74.0	64.9	2.62	2.70	2.98	2.82
65～69	60.7	70.9	81.3	68.2	2.72	2.80	3.04	2.79
60～64	69.2	77.9	85.1	75.8	2.76	2.84	2.98	2.65
55～59	79.2	85.5	88.8	80.8	2.74	2.80	2.90	2.60
50～54	83.6	88.0	90.4	81.4	2.81	2.86	2.87	2.62
45～49	86.7	89.9	91.2	82.6	2.88	2.92	2.93	2.65
40～44	88.4	91.1	91.2	82.8	2.99	3.05	3.00	2.71
35～39	89.4	91.6	90.7	81.3	3.13	3.19	3.01	2.73
30～34	89.8	90.3	90.1	81.1	3.21	3.07	2.85	2.62
25～29	89.7	88.6	89.8	80.3	2.95	2.76	2.65	2.46
20～24	91.2	88.0	89.4	78.2	2.70	2.58	2.48	2.32
15～19	95.5	93.5	95.4	90.2	2.42	2.40	2.41	2.29
10～14	99.1	98.4	98.3	95.9	2.71	2.63	2.70	2.49
5～9	97.9	97.9	98.5	95.3	2.79	2.76	2.81	2.50
合計	85.4	85.3	86.4	76.6	2.83	2.82	2.84	2.61

注1：外出率は、調査日に外出した人の割合である。

注2：1人1日当たりのトリップ数とは、外出した人1人の1日トリップ



数の平均を示している。 出所：東京都市圏交通計画協議会「東京都市圏パーソントリップ調査（第3回～第6回）」より作成。								
表Ⅲ-2 東京都市圏の代表交通手段別割合とトリップエンド数（2018年）								
地域	鉄道（%）	バス（%）	自動車（%）	二輪車（%）	自転車（%）	徒歩（%）	その他（%）	トリップエンド数
東京区部	50.9	3.0	8.0	0.8	13.2	24.0	0.1	45,184,594
川崎市	39.2	4.3	13.8	1.5	14.1	27.0	0.1	5,136,013
（ア）	37.3	5.8	20.2	2.2	7.2	27.3	0.1	13,085,811
千葉市	27.0	2.9	34.9	1.1	10.8	23.2	0.1	3,601,948
埼玉北部	12.7	0.8	58.7	1.1	10.8	15.8	0.2	7,787,840
千葉西南部	8.6	1.0	69.8	0.9	5.9	13.6	0.3	2,054,003
茨城南部	6.7	1.1	70.9	0.7	8.3	12.0	0.2	5,569,461
千葉東部	5.9	0.6	74.9	1.0	7.2	10.3	0.0	2,574,899
注1：1トリップでいくつかの交通手段を乗り換えた場合、そのなかの主な交通手段のことを「代表交通手段」とよび、集計上の優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪車、自転車、徒歩の順となる。 例）自宅から駅まで自動車で移動し、駅から鉄道で勤務先へ行く場合の代表交通手段は「鉄道」となる。								
注2：トリップエンドとは、図Ⅲ-1の出発地と到着地（目的地）を表す。 例）出発地が東京区部で到着地が川崎市の場合、トリップエンド数は東京区部が1となり、川崎市が1となる。								
注3：代表交通手段別割合をたすと100%になる。 出所：表Ⅲ-1に同じ。								

入試問題が多くなる。さまざまな国際的イベントを通して、地理に対する生徒の関心を高めたいというのは、地理教育にかかわる人たちに共通する思いではないか。

表7に示すように、私立大学では大相撲、サッカー、野球、陸上競技で活躍する選手や国、人気漫画やアニメの舞台となった地域に関する問題がかなりみられる。しかし、設問の内容はほとんどが知識を問う問題で、愛知大学の「大相撲でモンゴル出身力士が活躍する背景」を考えさせる問題以外は思考力を問う形になっていないのは、マーク式問題の限界でもある。

学習院大学の問題は、とうとう入試問題にも生成AIによる問題文が登場した「画期的」な問題である。生成AIが作成したのは問題文だけで、設問はその文章中の下線部に関する地理的知識を問う形式をとっている。また、「地理情報を得る上で生成AIを使うときの留意点」を論述させているが、生成AIの作った文章そのものに留意点を考える手がかりが示されているわけではなく、

表7 国や地域の導入部に受験生の関心をひく工夫が見られた問題（2024年度）

大学・問題番号	テーマ・イベント	設問内容
愛知大学 (2/5実施)Ⅲ	大相撲の 外国出身力士	外国出身力士の出身国の地誌的知識を問う。モンゴル出身の力士の活躍の背景にあるモンゴルの地理的社会的な特徴を論述させる。
国士舘大学 (2/4実施) 第3問	サッカー ワールドカップ 2022	A～Hのグループリーグごとに全参加国・地域を示し、各グループの国に関する地誌的知識を問う。
明治大学 (2/5実施)Ⅱ	ワールドベースボール クラシック 2023	1次ラウンドから決勝までの全参加国・地域の組み合わせを示し、1次ラウンドの各プールの国・地域や、勝ち残った国・地域に関する地誌的知識を問う。
東洋大学 (2/9実施)Ⅰ	東京2020オリンピック 競技大会	陸上男子3,000m障害物決勝に進出した選手が代表した14か国を地図で示し、それらの国に関する地誌的知識を問う。
国士舘大学 (2/1実施) 第4問	地球の歩き方・ジョ ジョの奇妙な冒険	荒木飛呂彦作『ジョジョの奇妙な冒険』の第1部～第8部のルートを図に示し、各ルート上の地域の地誌的知識を問う。
学習院大学 (2/6実施)Ⅰ	生成AIによる 文章	生成AIによる「シドニーからパースまでの鉄道旅行で見る景色」の文章に登場する地域や事象に関する知識を問う。地理情報を得る上で生成AIを使うときの留意点を論述。

一般的に言われている問題点を指摘させるにとどまるとすれば、やや安直な作問ということになる。地理の探究学習において生成AIをどう考えるかも含め、議論されるべきであろう。

◆GISやハザードマップを使った問題

表8に示した北海道大学と近畿大学の問題では、ともにGISを使ったさまざまな地図を示し、集落や避難所の立地などについて出題しているが、北海道大学が色刷りの地図を使っているのに対し、近畿大学はグレースケールの濃淡やモノクロのパターンで示している。教科書は多色刷りで、WebGISや実際のハザードマップの活用でも、カラーの地図で学習する機会が多い中で、共通テストを始め、多くの入試問題では図版はモノクロで示されている。すでにカラー図版を使用している大学がある以上、入試問題でもカラーへの対応を検討することを期待したい。なお、帝国書院の教科書や資料集ではQRコードを読み取ってWebGISにアクセスし、さまざまな地図の読み取りの演習ができるので、ぜひ活用したい。

4 論述問題の形式・テーマと対応策

国公立大学の二次試験ではいずれも論述問題が課されるが、全体の分量、設問ごとの字数は大学によってかなり異なる（表9）。論述問題の内容は、単純な用語の説明もあるが、分布図や国・地域ごとの統計資料をもとに地理的事象の地域的な違いの要因に関する問題や、経年変化を示す図表を用いて変化の背景を説明させる問題など、資料の判読と論理的思考力、簡潔な表現力をためすものが多い。こうした論述問題への対策としては、ふだんからさまざまな資料をもとに考える力を養うことが重要で、入試問題でも扱われるさまざまなテーマに関する図表をコンパクトに解説した『新詳地理資料COMPLETE』が役に立つ。



表 8 GIS・ハザードマップに関する問題

大学・問題番号	設問内容
北海道大学 Ⅰ	地形図から断面図を作成、土地利用図から人工的に造成された土地（田と工業地）の土地造成の違いを述べる、地理院地図の標準地図と色別標高図から土地条件図の凡例を判定、重ねるハザードマップ（洪水の浸水想定区域、津波浸水想定地域）の判読など。図はいずれもカラー。
近畿大学 (3/9 実施) Ⅲ	4 つの地域概観図（「基盤地図情報」、「国土数値情報」をもとに作成）の判読に関する正誤の判定や語句の選択、図中の地点間の地形断面図選択、4 地点からみた陰影起伏図の判定、4 地点の地形区分と避難場所の分布図（「国土数値情報」、「全国指定緊急避難場所データ」などをもとに作成）と地域区分の面積・避難場所の数を示した表の正しい組み合わせの判定など。図はいずれもモノクロ。

表 9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その 1（2024 年度）

	論述 問題数	総字数	1 題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
北海道大学	14	1250 字程度	90 字程度 60 ～ 150	<p>▶ 20 万分の 1 土地利用図から、人工的に造成された二つの土地の造成の違いを述べる。▶ 東京都の西部や大阪府の北方にある丘陵地の地形と土地利用の特徴を説明。▶ 二つの地域の「重ねるハザードマップ」の洪水浸水想定区域の地図から、洪水を避けるために集落がどのような土地に立地しているかを述べる。▶ アフリカの一部地域で信仰が認められるアニミズムを説明。▶ 1950 年代から 1960 年代にかけてアメリカ合衆国で生じた公民権運動を説明。▶ 日本で 1990 年代に全在留外国人に占める南米系国籍者の割合が増加した背景・理由を説明（指定語句：入管法、日系人）。▶ 図中の C 国（インド）の季節風の特徴を説明。▶ 図中で四角に囲まれた地域（カシミール地方）の国境線が点線で示される理由。▶ C 国（インド）で ICT 産業が盛んになった理由。▶ デカン高原における農業の特徴を土壌などの自然条件と結びつけて説明。▶ アトラス山脈の南側斜面と北側斜面における農業の特徴を説明。▶ 世界遺産条約の目的を説明。▶ AU（アフリカ連合）の目的を説明。▶ 「アラブの春」はどのような運動かをその発端となった政変に言及して説明。</p>
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類)	4	900 字	225 字	<p>▶ <b>外国地形図読図</b> [19 世紀末にスイスで撮影された氷河の写真の撮影地点を現在の地形図に示された 3 地点から選び、その理由を説明。写真と地形図から 19 世紀末から 21 世紀初頭にかけての氷河の形状の変化とその原因を説明]。▶ 地球の模式図に 3 つの恒常風の向きと 4 つの気圧帯の位置を記入し、気圧帯と恒常風との関係を説明。▶ インドネシアの人口推移（1960 ～ 2021 年）を都市地域と農村地域別に示した図を参照して、インドネシアの人口変化と大都市にみられる特徴を説明（指定語句：工業化、交通渋滞、首都移転計画、人口移動、スラム）。</p>
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類以外)	4	1600 字	400 字	<p>▶ <b>地形図読図</b> [1952 年と 2017 年の「白井」の 2 万 5 千分の 1 地形図を読み、集落立地、土地利用、およびそれらの変化を地形の特性と結びつけながら説明]。▶ 日本の 4 つの都市（仙台、東京、大阪、福岡）と 10 都市平均の 1927 年から 2022 年までの日最高気温および日最低気温の年平均値の長期変化傾向を示した表をもとに、都市の気温の長期変化傾向の特徴と考えられる要因を説明。▶ ヨーロッパの大都市の都心やその周辺地区でみられる建造物の更新例を示した写真を参考に、ヨーロッパの都市問題を説明（指定語句：インナーシティ、居住者、ジェントリフィケーション、地価）。▶ オーストラリア、カメルーン、日本、バングラデシュの主な穀物と肉類の生産量、輸入量、国内供給量を示した表から、国名を判定し各国の食文化や食料自給にみられる地域的特徴とその背景・課題を説明。</p>
東京大学	17	990 字	60 字 30 ～ 90	<p>▶ 世界の成人における乳糖耐性者の割合を示した分布図をもとに、西アフリカ、アラビア半島から南アジアにかけての地域で乳糖耐性者の割合が高い共通する理由を説明（指定語句：適応、気候、飲用）。▶ モンゴル人は乳糖耐性者の割合は高くはないにもかかわらず、夏場の摂取カロリーの 3 分の 1 以上は乳由来であるが、どのような加工で乳糖を減らしているかを説明。▶ 東南アジアでは乳糖耐性者の割合が低く、乳と乳製品が利用されてこなかった。その理由を主食穀類の栄養成分比較表を参考に説明。▶ 世界の地域別天然ガス年間生産量の推移を示した図と、天然ガスの地域間の輸出・輸入量をパイプラインによる輸送と LNG としての輸送に分けて示した図を参考に、日本のエネルギー資源確保の観点からみた天然ガスの特徴を石油と比較しながら述べる。▶ 深海底が将来の世界の経済に大きな影響を与えると考えられている理由を述べる。▶ 大陸別の平均地形断面を示した図から、各大陸を判定した上で、アの大陸（アジア）が標高の高い土地の割合が高い原因となっている大地形の特徴を述べる。▶ 標高 500 m 以下の陸地面積比率が大きい E（ヨーロッパ）とオ（オーストラリア）で、そこでの土地利用・土地被覆の特徴が大きく異なっていることについて、相違が生じた理由とともに述べる。▶ 2020 年時点で人口が 1 億を超える 14 か国の人口規模と 1960 ～ 2020 年の人口変化率を示した表をもとに、人口規模 2 億 ～ 3 億台の国のうちイ国（ナイジェリア）の人口変化率の推移と、人口と経済に関わる社会状況の推移をケ国・コ国（ブラジル・インドネシア）と比較しながら説明（指定語句：経済発展、生活水準）。▶ 人口規模 10 億以上の 2 か国（中国・インド）の人口変化率の推移にみられる差異とその背景を説明。▶ 1960 ～ 1980 年の人口変化率が 20％台の低水準にあった 2 か国（アメリカ合衆国・日本）のその後の人口変化率の推移にみられる差異とその背景を説明。▶ アメリカ合衆国のニューオーリンズに関する文章から都市名を判定した上で、この都市が港湾都市として栄えた理由をミシシッピ川流域の産業との関係から述べる。▶ 2005 年のハリケーンによる災害が生じた直後と 1 週間後の都市域における人口と自宅の浸水状況をエスニック集団別に示した表を参照し、特定のエスニック集団が顕著に被災し、復興過程でもこの問題が顕在化した理由を述べる。▶ ニューオーリンズ周辺地域では、近年ミシシッピ川の水位が大幅に低下する年があるが、このことが地域の経済活動に与える影響を述べる。▶ 世界の都市圏人口が 500 万を超える都市の地下鉄が開業した年を示した表から、東京と大阪では当時どのような都市圏の問題から地下鉄の建設に踏み切ったと考えられるかを説明（指定語句：路面電車、密度）。▶ ロサンゼルス地下鉄開業が他の欧米の大都市に比べ遅かった理由を説明。▶ 1990 年代以降アジアの大都市で地下鉄を建設する必要が生じた背景にある都市問題を述べる。▶ アジアの大都市で地下鉄の建設が可能になった主な要因を二つ取りあげて説明。</p>
東京学芸大学	9	1100 字程度	120 字程度 60 ～ 400	<p>▶ 世界のサンゴ礁の分布図をもとに図中の A（北緯 40° 付近の日本近海）、B（アマゾン川河口付近）、C（ペルー近海）の海岸域でサンゴ礁がみられない理由を説明。▶ マングローブ林の恩恵について、災害と水産資源の観点から説明。▶ 温暖化によって想定される影響や問題について説明（指定語句：海水、水没）。▶ 離水海岸にみられる海岸段丘の形成過程と特徴について説明（指定語句：波の侵食、地殻変動）。▶ ヨーロッパの地図に示された D（ノルウェー海岸）、E（エルベ川河口とテムズ川河口）、F（スペイン北西部）地域にみられる海岸地形を答え、E 地域の海岸地形は港湾機能に優れた貿易港が発達しやすい理由を、他の 2 地域の海岸地形との違いを踏まえて説明。▶ 日本における大都市圏と地方都市圏の大型店の立地パターンを模式的に示した図をもとに、大都市圏のタ（百貨店）のうち、J（都心・ターミナルに立地）と K（近郊都市に立地）の 2 種類の店舗について、それぞれの取扱商品の特徴とそれが異なる理由を説明。▶ アメリカ合衆国の大都市圏で 1970 年代以降都心部における貧困層の集住や治安の悪化などに伴い進展した「郊外化」に関わる、主な地域変化や事象について説明（指定語句：オフィス、情報化、ショッピングセンター）。▶ アメリカ合衆国の大都市でみられた「都心回帰」に関わる主な地域変化や事象について説明（指定語句：ジェントリフィケーション、職住近接、都市再開発）。▶ 高等学校「地理 B」で学ぶ系統地理的考察と地誌的考察について、それぞれの事象・項目の取りあげ方、考察方法を具体的に示し、特徴や相違点を説明。</p>
一橋大学	10	1200 字	120 字 100 ～ 150	<p>▶ コロンビアで生産が本格化したバイオエタノールの主な原料作物、主な用途を答え、同国がバイオエタノールの生産に力を入れている理由を、それに密接に関わる国際条約の名称、2015 年に採択された協定の名称を示しながら説明。▶ 米国が 2010 年代にバイオエタノールの輸出を増やした理由を、米国におけるバイオエタノールの需要と供給の関係に触れながら説明。▶ コロンビアのコカ産地の分布図からその地理的分布傾向を指摘しながら、農民がコカを栽培・販売してきた経済的な理由を、内戦下でこの作物の加工販売が反政府勢力の活動資金源の一つとさ</p>

表9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その2（2024年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
				<p>れたことを考慮して説明。▶コカ産地の分布図とコカ栽培面積の推移を表したグラフの示す傾向を踏まえて、内戦が和平合意に達した後コロンビア政府がとった農民に転作奨励金を支給する政策がもたらした結果とその理由について考えを述べる。▶国際的な生産分業における日本の「前方参加」（中間財を生産して輸出）と「後方参加」（中間財を輸入して完成品を輸出）の割合の推移を示した図から、変化傾向を要約し、そうした傾向が生じた理由を説明。▶NAFTA-EU・中国・日本の間の貿易関係と2008年、2009年、2010年の貿易額を示した表をもとに、2008年に始まる世界経済危機から2010年までの間、貿易関係がどのように変化したかを述べ、この時期に日本企業がどのように対応したかを説明。▶日本が国際的な生産分業に後方参加する際に、生産と流通の混乱によって被る問題について、2020年に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による影響を例に、貿易相手国・地域を示しながら説明。▶東京都市圏の年齢階層別外出率および1人1日当たりのトリップ数（概念図で解説）の推移を示す表から、①19歳以下、②20歳～39歳、③65歳以上についてその傾向を要約し、その傾向がもたらす生活スタイルの変容について説明。▶東京都市圏の地域別の代表交通手段別割合とトリップエンド数を示した表をもとに、公共交通機関の利用が多い地域と少ない地域で、人の移動をめぐってどのような課題があるかを説明。▶交通システムが抱える喫緊の課題を言及し、地理空間情報の活用やモビリティ・アズ・ア・サービス（MaaS）の導入によって、どのような効果が期待できるかを論じる。</p>
新潟大学	7	480～620字	80字 40～140	<p>▶数理的国境などの人為的国境がアフリカ大陸に多く存在し、国家間や国内の紛争の原因の一つとなる理由を説明。▶アメリカ合衆国とメキシコの国境線を挟んで対向する都市を示した衛星画像をもとに、国境線を挟んだ一方の都市の規模が極端に大きい理由を説明（指定語句：工場、国境、労働力）。▶地図中に示した二つの地域（ガラパゴス諸島と小アンティル諸島）に火山が形成される要因を説明（指定語句：沈み込み、ホットスポット）。▶大規模な三角州が発達するナイル川で、近年海岸の後退がみられるようになっている背景を、上流部における開発に言及しながら説明。▶埋立と干拓の土地造成方法の違いについて説明。▶地形図読図〔埼玉県のある地域の電子地形図25000を示し、荒川の右岸と左岸の集落の立地と農地の特徴の違いを説明（指定語句：河岸段丘、自然堤防、氾濫原）／横堤と呼ばれる河川に直角方向に突き出した堤防の治水上の役割を説明〕。</p>
信州大学	4	550字	140字	<p>▶1963～1977年に発生したM4.5以上の地震の震央を示した世界地図をもとに、図中の地点（東太平洋海嶺上）付近を境に見られるプレートの動きとその特徴を説明。▶ニュージーランド南島南西部の拡大図をもとに、海岸に見られる特徴的な地形を説明（指定語句：侵食、谷地形、沈水、低海面、氷期）。▶世界各国の合計特殊出生率と死亡率を示した階級区分図をもとに、それぞれどちらかを判断し、その理由およびそれぞれの分布の特徴を説明。▶日本における人口問題について、現状と課題を説明（指定語句：合計特殊出生率、高度経済成長期、社会保障制度、生産年齢人口）。</p>
愛知教育大学	11	1500字程度	135字 程度 60～250	<p>▶赤道付近の恒常風の名称を答え、それが生じる理由を説明。▶北緯30～60度付近の恒常風の名称を答え、大西洋と太平洋の北半球側でこの恒常風がどのような海流を生じさせているかを説明。▶氷山に衝突したタイタニック号の沈没地点の地図を参考に、この付近でなぜ氷山が流れていたかを説明。▶地形図読図〔「四天木」（九十九里浜）の2万5千分の1地形図から、海岸地形がどのように形成されてきたかを説明〕。▶エクメーネとアネクメーネ、その境界となりうる極限界・高距限界・乾燥限界を説明。▶西ヨーロッパで多産少死から少産少死へと移行した理由を説明。▶1990～2000年における日本の人口増加幅の大きかった10都市と人口減少幅の大きかった10都市を示した地図と、人口増加10都市と人口減少10都市の就業構造を示したグラフをもとに、人口増加都市と人口減少都市の位置や分布、就業構造の特徴を説明（指定語句：大都市、ベッドタウン、農業、第三次産業）。▶人口移動の「政治的理由」と「強制的理由」の意味を代表的な例を挙げて説明。▶南アメリカ大陸の地図中の線（南緯16度線付近）に沿う地形断面図に該当するものを選び、大陸西部と東部の地形の特色とその成因を説明（指定語句：プレート、変動帯、安定陸塊）。▶地図中の地点（ブラジリア付近）の雨温図を選び、セラードやカンボと呼ばれるイネ科の丈の高い草が茂ったり、低木も点在したりする草原のような植生をもたらす気候的特色を説明。▶アマゾンの熱帯雨林を守るために、日本の人びとができることはどのようなことか、ブラジルから日本への輸出品の構成割合を1995年と2019年で示した図を参考に、自らの考えを述べる。</p>
名古屋大学	14	1600字程度	110字 程度 60～300	<p>▶地形図読図〔阿賀野川下流域の地理院地図をもとに、集落分布の特徴を地形条件から答える／最も多くを占める土地利用を答え、そのような土地利用になる理由を地形条件から答える／想定される自然災害とその対策を地形の特徴に着目しながら説明〕。▶季節によって風向きが変化する大規模な風の名称と、この風が日本列島の日本海沿岸地域での冬季の気候に与える影響を説明。▶日本列島に広く分布する成帯土壌の一つ挙げ、その特徴を説明。▶愛知県庁から県境までの地形断面図に示された地点（県庁から15kmほどの丘陵地）について述べた文章中の「職住分離」について、文章の内容に即して説明。▶旧来の農地を利用して市民農園が開設された理由について、文章の内容に即して説明。▶図中に示された地点（県庁から60kmほどの山間部）について述べた文章中の「限界集落」とはどのようなものかを説明。▶地域活性化の方策として、現在の日本で一般的に取り組みされている事例を2つ例示する。▶人口40万を超える3都市（豊田市、金沢市、豊中市）のいくつかの指標に関する数値を示した表をもとに、それぞれの都市の特徴について相互に比較しながら説明。▶ブラジルの「不毛の土地」と呼ばれていた地域が、世界有数の大豆産地に発展した理由を述べる。▶自動車レースのF1の開催地の内、酸素濃度の観点から最も内燃機関に負荷のかかる都市（メキシコシティ）を選び、その都市の大気汚染問題の対策を説明。▶前問で解答した都市（メキシコシティ）と同様の自然条件を有する都市が、低緯度地域で発達した背景を説明。▶アメリカ合衆国の州別のヒスパニック人口割合を示した地図をもとに、ヒスパニックの人口分布の特徴を説明。</p>
京都大学	18	520字程度	30字 程度 20～40	<p>▶ガンジスデルタがジュート工業の原料生産地となった気候上の要因を述べる。▶ジャムシェドプルに製鉄所が建設された立地上の要因を述べる。▶外国資本をひきつける要因となっているインドの人口構成上の特徴を述べる。▶日本の4都市（愛知県春日井市、神奈川県川崎市、東京都中央区、富山県富山市）の人口増減率の推移を示すグラフをもとに、住宅都市の典型例である都市で2000年ごろから高齢化率の上昇が顕著にみられるようになった理由を述べる。▶アメリカやヨーロッパの諸都市で衰退・荒廃した地区の再開発により、流入および流出しやすい住民の特徴を述べる。▶世界における砂漠化の危険性の高い地域を示した図中のD付近（チリ中部）の海岸線に沿った地域で砂漠化の危険性が高い原因を自然条件に着目して述べる。▶ミシシッピ川より西側の肥沃な黒色土壌が成立する地域の植生を述べる。▶図中のB付近（アメリカ合衆国のグレートプレーンズ）で、大規模灌漑の普及による農業の変化が、この地域の牧畜業にもたらした変化について述べる。▶ハブ空港とはどのような空港かを述べる。▶7都道府県の航空輸送の統計データを示したグラフをもとにB（北海道）・沖縄県・福岡県において国内旅客輸送が大きい理由を、航空交通の特性に留意して述べる。▶国際輸送において航空交通が選択される貨物の特徴を述べる。▶感染症の世界的流行により2019年度と比較して2021年度は航空輸送に大きな変動が生じたが、旅客輸送と貨物輸送で顕著な違いがみられた理由を述べる。▶新旧地形図読図〔同じ地域（山梨県南アルプス市）の平成19年と昭和4年の2万5千分の1地形図をもとに、平成19年の図中に広くみられる農業的土地利用が形成された背景として地形のどのような特徴が関連しているかを述べる／昭和4年の図では広くみられたが平成19年の図ではほとんどみられなくなった土地利用の生産物が、日本で盛んだった工業とどのように関連していたかを述べる／図中の工場周辺がかつてどのような場所であったかを、河川の変化をふまえて述べる／図中の河川内に多数みられる水流と直交するせきの目的を、地形の特徴と河川の水流の状況をふまえて述べる／図中の「徳島堰」が自然の流路ではなく人工的に建設された用水路であることが図中のどのような点に表れているかを2つ述べる／江戸時代に開削された徳島堰は図中の範囲の開発にどのような役割を果たしたのか、地形と農業の観点から述べる〕。</p>



表9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その3（2024年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
大阪大学	6	900字 程度	150字 程度 100～ 200	▶ケッペンの気候区分において、冷帯（亜寒帯）気候はほぼ北半球のみに分布し、冷帯冬季少雨気候（Dw）はシベリア付近にのみ分布する理由を世界地図を参考に説明。▶地図中に示された3地点（内モンゴル自治区西部、図カン高原南部、ニジェール西端）に共通する気候および農業の特徴を数物名を少なくとも1つ挙げて述べる。▶図中の地点（アメリカ合衆国グレートプレーンズ付近）の灌漑農業の特徴と問題点を述べる。▶図で示された太平洋北西部の日本近海（東日本の沖合）における好漁場の位置とその要因を、自然環境および経済的・文化的な側面から述べる。▶世界の漁業・養殖業生産量の推移を示したグラフから読み取ることのできる、漁業の種類ごとの傾向と背景を述べる。▶東日本大震災後の被災地の漁業に関わる復興の要点を多面的な視点から述べる。
九州大学	6	1030 字	170字 100～ 220	▶シベリアのレナ川流域で春季にしばしば洪水が発生する理由を述べる。▶都市型水害の特徴と日本における対策の具体例を述べる（指定語句：地下街、マップ）。▶2011年のタイでの洪水では工場が浸水し、東南アジア各国の自動車生産に影響が生じたが、これについてタイ・マレーシア・インドネシアの自動車の生産台数と相互の輸送機械中間財の貿易額を示した図を参考に、東南アジアにおける自動車産業の特徴と洪水によってどのような影響が生じたかを述べる。▶西アジアと中央アジアの自然条件に応じた伝統的な生業活動の特徴を述べる（指定語句：遊牧、オアシス）。▶サウジアラビアの主要農産物の収穫高の変化を示した表を参考に、1970年代以降のサウジアラビアの農業生産の変化とその背景を述べる（指定語句：食料自給率、セクター・ピボット方式）。▶1960年以降大幅に面積が縮小したアラル海について、自然環境の特徴、縮小の背景、それが周辺の地域社会や経済などに与えた影響を述べる（指定語句：塩湖、健康被害、自然改造計画）。
長崎大学	8	800字 程度	100字 程度	▶モレーンとは何かを説明。▶日本農業における減反とは何かを説明。▶ヨーロッパの4か国（イタリア、ドイツ、フランス、ロシア）の一次エネルギー構成比を示したグラフで再生可能エネルギーに該当するものを答え、そう判断できる理由を説明。▶アジアの4か国（韓国、シンガポール、中国、日本）の1人当たり国内総生産と1人当たり国際観光支出を示したグラフから、シンガポールに該当するものを答え、そう判断できる理由を国際観光支出に注目して説明。▶オーストラリアにおける国外で生まれた住民の出身国・地域の上位9位までの変化を示した表から読み取れることを、背景にある政策の変化を含めて説明。▶地形図読図〔北大東島の2万5千分の1地形図から、この島が元はサンゴ礁であったこと、またそれが隆起したことは、図中のどのような点から読み取ることができるか、あるいは推測することができるかを説明〕。▶アメリカ合衆国で1970～80年代に起こった製造業の大きな変化が、古くから工業の発達のみられる五大湖沿岸から北東部の都市の産業構造や地域にどのような影響を与えたかを説明。▶都市鉱山とは何かを主要な資源名を3つ挙げながら説明。
高崎経済大学 （前期）	9	800字 程度 （推測）	90字 前後 （推測）	▶地形図読図〔長崎の5万分の1地形図に枠で示された2つの範囲における地形と土地利用を比較して、想定される災害リスクを答える／図中に示された造船関連の施設の竣工量が2010年以降減少した理由を説明〕。▶4つの都市（熊本市、佐賀市、長崎市、福岡市）の1980年を1とした人口指数の推移を示したグラフをもとに、長崎市の人口が減少している理由を説明。▶水上交通の利点と欠点を答える。▶モーダルシフトを説明。▶コンテナ船の普及が港湾物流にもたらした変化を説明。▶アメリカ合衆国の小麦地帯で栽培される春小麦と冬小麦を説明。▶頁岩層からの天然ガスや原油の産出が本格化しエネルギー事情が大きく変わったことを何というかを答え、このような変化が経済や社会に与えた影響を説明。▶情報通信技術がどのような効果と問題を生み出したか説明。
高崎経済大学 （中期）	8	700字 程度 （推測）	90字 前後 （推測）	▶発展途上国で出生率が高い理由と死亡率が低い理由を説明。▶文章中の下線部の用語（合計特殊出生率、一人っ子政策）をそれぞれ説明。▶地中海性気候の特徴を説明。▶20世紀末に多くのムスリムが暮らす地域でイスラム復興運動が活発化した背景を説明。▶台湾北部のシンチュー（新竹）が世界的なハイテク産業の集積地となった人的資源に関わる要因を述べる。▶日本におけるセメント、ビール、集積回路、自動車の工場の分布図から集積回路に該当するものを答え、集積回路の工場がそのような分布になる理由を説明。▶日本が中小企業の技術力によって依然として強い国際競争力をもっているのはどのような分野かを述べる（指定語句：基盤技術、試作品、生産設備、金型）。▶コンテンツ産業の立地は一般に大都市圏に集積する傾向があるとされる理由を述べる。
東京都立大学 （文系）	13	1600 字程度 （推測）	125 字前後 （推測）	▶カナダでサマータイムが実施される理由を答える。▶カナダの森林分布図をもとに、図中のサ地域（太平洋岸北部）で高緯度にもかかわらず森林が分布する理由と、シ地域（南部の内陸）で低緯度にもかかわらず森林が分布しない理由を、それぞれ気候条件と関連づけながら説明。▶カナダの州・準州別にみた家庭言語の人口割合を示す図をもとに、カナダにおける家庭言語の地理的分布とその背景を説明。▶カナダの北極海沿岸からグリーンランドにかけて暮らす民族の名称を答え、彼らの伝統的な生活文化（衣食住）について説明。▶1923年の関東大震災によって被災した地域を対象にした震災復興区画整理地区の地図、地図中の線に沿った地形断面図、市街地の拡大過程の地図を見て、関東大震災で被害が大きかった地域の分布とその背景を述べる。▶東京都が区部の町丁目別に調査した現在の震災危険度を示した地図で、建物倒壊危険度と火災危険度の分布の相違点を述べた上で、なぜそのような違いが生じるかを前問の図を参考に述べる。▶地形図読図〔地理院地図（広島県安芸郡坂町）に示された自然災害伝承碑について、そこで発生した自然災害を答え、そのように判断した理由を述べる〕。▶南海トラフ巨大地震の被害想定を府県別に示した表から、建物被害想定規模や内訳からみた府県の被害の特徴を読み取りその背景を述べる。▶洪水ハザードマップに記載されている情報と発災時に備えた使い方を述べる。▶日本周辺の海域に関する概念図をもとに、図中のC（排他的経済水域）に関して小笠原諸島のもつ重要性について説明。▶小笠原村と日本全国の人口ピラミッドをもとに、小笠原村の人口ピラミッドが日本全国と大きく異なる点を3つ挙げ、それぞれ異なる理由を述べる。▶小笠原村と日本全国の産業別就業者数とその割合を示した表をもとに、小笠原村の産業別就業者数の割合が日本全国と大きく異なる点を、第1次産業、第2次産業、第3次産業からそれぞれ1つずつ挙げ、それぞれ異なる理由を述べる。▶2019年2月26日～4月2日の父島における水道水の使用量の変化を示した図で周期的な変化がみられる理由について、これまでに問題で示した図表に言及しながら説明。
東京都立大学 （理系）	14	1600 字程度 （推測）	120 字前後 （推測）	▶3つの雨温図に該当する地点を地図中から選び、そのように判断した理由を述べる。▶日本での黄砂の月別観測日数のグラフをもとに、日本への黄砂の飛来は春に多く発生し、秋から冬にはあまり発生していない理由を述べる。▶地図中の海岸砂漠（ナミブ砂漠、アタカマ砂漠）の位置をもとに、これらの地域に海岸砂漠ができる共通の理由を述べる。▶地図中に示された黒海北部から西シベリア南部にかけて分布する成帯土壌の名称を答え、その成因についてまとめた文の空欄に当てはまる文を答える。▶乾燥地・半乾燥地の「外来河川」と「ワジ（涸れ川）」のそれぞれの特徴を述べる。▶世界のいくつかの地域の小麦産地を作付と収穫の時期によって3つのタイプに分けた栽培層で、それぞれのタイプが春小麦、冬小麦のいずれかを判断した上で、それぞれの作付と収穫の時期の決定に自然条件がどのように影響しているかを述べる。▶小麦の栽培層の図を参考に、小麦の収穫時期が地域によって異なることの貿易上の利点を述べる。▶稲の栽培方法を、①灌漑を使う水稻、②灌漑を使わない水稻、③陸稲に分け、それぞれのの方法の特徴を自然条件と関連づけて述べる。▶アジアとアフリカで米の生産量と輸入量の多い上位8か国を示した表から読み取れることを述べる。▶アメリカ合衆国の米、小麦、とうもろこしの生産地域をおおまかに示した図から、とうもろこしの生産地域の特徴を、米、小麦と比較しながら、自然条件に関連づけて述べる。▶とうもろこしの用途が米や小麦の用途とどのように異なっているかを具体的に述べる。▶地形図読図〔地理院地図（ガーラ湯沢スキー場）で、ゴンドラの山麓駅と山頂駅の標高差を答え、そう判断した理由を説明／この地方にスキー場が多い理由を人文条件から説明／この地方にスキー場が多い理由と、山頂付近にスキー場が作られた理由を自然条件から説明〕。

# 2024年度 大学入学共通テスト 世界史Bの分析

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 井上 徳子

## 1 はじめに

2024年度世界史Bの平均点は60.28点で、昨年の58.43点から1.85点上がった(2022年度が65.83点、2021年度第1日程が63.49点)。世界史Bの受験者数は75,866人で、地理・歴史科の中でもっとも少なかった。

## 2 概略

**分量：**大問4題、小問33問は、2021年度に共通テストになってから2023年度までの大問5題、小問34問から減少したが、分量の大きな変化はなく、問題のページ数(白紙を除く)は昨年と同じ32ページであった。

**時代：**前近代史からの出題が多いが、第二次世界大戦後からの出題が昨年より増加し、第二次世界大戦後を中心とする小問は3問であった。選択肢の一部に第二次世界大戦後の内容を含む問題も2問あったが、いずれもグラフの読み取り問題で、世界史の知識そのものは不要であった。

**地域・分野：**欧米史がアジア・アフリカ史より多く、アジア・アフリカ史では中国史からの出題がめだった。一方で、東南アジア諸国、オセアニア、ラテンアメリカ、サハラ以南のアフリカからの出題はなかった。分野は例年通り政治史中心だが、文化史も昨年同様多かった。

**形式：**大問4題中3題、計7か所で文字史料が利用されており、文字史料がない1題では図版が利用されていた(ただし、読み取りの必要なし)。会話文は大問4題中2題、計4か所で、昨年の5題すべて計10か所から激減した。問題を解く上での煩雑さが少し軽減したとはいえ、資料(文字史料・グラフ・地図)や会話文など複数の材料から必要な情報を読み取り、習得している知識と結びつけながら総合的に判断する問題が多いことに変わりはなく、注意深く解答することが必要である。なお、本試験で初めて連動式の問題が出題された(13)。

14)。

## 3 正答率が低かった問題

本年の出来不出来は大学入試センター公表『令和6年度試験情報データ』に基づく。その結果は河合塾が集めたデータとほぼ一致するため、誤答のパターンは河合塾

### ■例題1 2024年度 共通テスト本試：第4問 問9 33

福村さんは授業の後に、世界史で学んだことを踏まえてメモ1・2を作成した。前の文章を参考にしつつ、メモ1・2の正誤について述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 33

#### メモ1

書道文化へ積極的に関与した乾隆帝は、漢人に対して自由な言論活動を認め、中国の伝統文化を保護した。

#### メモ2

清の皇帝による中国の伝統文化に対する政策は、北魏の孝文帝により自文化を維持しつつ進められた漢化政策に通じる。

- ① メモ1のみ正しい。 ② メモ2のみ正しい。  
③ 二つとも正しい。 ④ 二つとも誤っている。

が集めたデータに基づく。

これは正答率が一番低かった問題で、河合塾のデータでは、受験生全体だけでなく、現役生・高卒生、上位生・下位生すべてで正答率が一番低い問題だった。現役生は解答が分散しており、①～④のマーク率はほぼ4等分だった。下位層では正解④の選択者が一番少なく、①の選択者がその3倍以上おり、③の選択者も25%以上いたことから、メモ1を正しいと判断した受験生が非常に多かったことがわかる。先生の最後の発言「乾隆帝は自らも書を嗜み、数多くの名品を集めました。乾隆帝はさらにそれらを書道全集にして出版してもあります。このような皇帝による文化事業は、中国の伝統的な書道文化が長く保持された一因と言えるでしょう」に受験生の多くが注目したことがうかがえ、確かに、メモ1の「書道



文化へ積極的に関与した乾隆帝は「中国の伝統文化を保護した」の部分は、この発言から正しいといえる。しかし、書道全集にして出版したのは、漢人ではなく満洲人の乾隆帝であるため、この発言から「漢人に対して自由な言論活動を認め」ていることは読み取れない。そこで、禁書や文字の獄など清の漢人に対する思想弾圧を想起し、**メモ1**を誤文と判断する必要があった。読み取った情報と習得した知識を結びつけて判断しなければいけない問題の一例である。帝国書院『新詳 世界史B』・『新詳 世界史探究』（以下、『世界史B』・『探究』）は、本文で文字の獄を太字で強調し、清の思想弾圧を説明しており（『世界史B』p.133・『探究』p.146）、教科書で強調された部分の重要性を意識した学習が必要である。

## 4 得点差がついた問題

### ■例題2 2024年度 共通テスト本試：第4問 問1 [25]

文章中の空欄 **ア** の人物の事績 **あ・い** と、その人物が開催した公会議について述べた文 **X～Z** との組合せとして正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

[25]

#### 事績

- あ** 外敵の侵入に対応するため、軍管区制（テマ制）を導入した。  
**い** 徴税強化のため、コロヌスの移動を禁止した。

#### 公会議について述べた文

- X** 単性論が異端とされた。  
**Y** アリウス派が異端とされた。  
**Z** ネストリウス派が異端とされた。

- ① **あ**－**X** ② **あ**－**Y** ③ **あ**－**Z**  
④ **い**－**X** ⑤ **い**－**Y** ⑥ **い**－**Z**

例題2は、河合塾のデータで現役生と高卒生、上位生と下位生との間で一番差がついていた問題で、会話文から **ア** がキリスト教を公認した皇帝、すなわちコンスタンティヌスと判断し、その人物が開催した公会議はニケーア公会議だと特定したうえで行う正誤判定である。現役生・下位層ともに②③の選択者が多く（下位層では、正解⑤の選択者よりも②③の選択者がそれぞれ2倍いた）、コンスタンティヌス帝の事績として「**あ** 軍管区制（テマ制）を導入した」を正しいと判断していた。また、「**い** 徴税強化のため、コロヌスの移動を禁止した」は細かめの情報とはいえ、軍管区制がビザンツ（東ローマ）帝国の制度だとわかれば消去法でも判断できる。ニケーア公会議について「**Z** ネストリウス派が異端とさ

れた」を選択した人が多かったこととあわせて、結局、**知識不足が正答率の低さに直結した形**である。ちなみに、コロヌスの移動の禁止については、『世界史B』・『探究』いずれにも言及があり（『世界史B』p.33・『探究』p.80）、教科書に基づく学習はやはり重要である。

## 5 現役生の弱点

**例題1** 以外で現役生の正答率が低かった問題は、第3問 問4のアメリカ合衆国で起こったできごとについての整序問題、第4問 問5のポルトガル王室がコロンブスを支援しなかった理由についての仮説に関する問題である。前者では武器貸与法の時期が、後者ではコロンブス西航とトルデシリャス条約の前後関係と、スペイン王によるポルトガル併合の時期がわかっておらず、**共通点は事象の時期についての知識不足**である。

## 6 展望

2025年度から共通テストは『歴史総合、世界史探究』となる。現在は2022年秋に公表された試作問題でしか方向性は探れないが、世界史の問題形式はすでに共通テスト移行時に大きく変化しており、その方向性を引き継いで、より深化させているイメージである。つまり、多彩な資料を読み取り、習得した知識と組み合わせながら総合的に判断する問題が主流で、できごとの内容・特徴や因果関係・背景・影響などを問う問題が増加するイメージである。したがって、短文の中の出語入れかえレベルの正誤判定ではなく、問題の意図を理解し、そこに合う短文を選択する力が求められる。そのためには単語の暗記では不十分である。事象の時期を含めた正確な知識が結局必要であり、**歴史的事象の背景や原因、結果や影響、縦や横のつながりなどに着目して、教科書を徹底的に利用した学習が望まれる**。その際、豊富なコラムや地図・図版も活用するとよい。

最後に、「歴史総合」の日本史部分の攻略については、普段の「世界史探究」の学習を進める際に、18世紀以降については同時期の日本がどのような状態であったか、また世界の動きが日本にどのような影響を与えていたのかなどを確認する癖をつけるとよいだろう。

# 2024年度 国公立大学入試

## 世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 山内 秀朗

### 1 はじめに

昨年度の展望において、国際秩序と人権に関するテーマに注意を喚起したが、実際に2024年度の国公立大学入試では、このテーマに関連する問題が多く出題された。関連して、ブラック・ライヴズ・マター運動やポストコロニアルの視点からの問題もあった。世界史探究と歴史総合の新課程を先取りする資料読解を要求する問題や、「世界史の中の日本」に関連する問題も多かった。国家・宗教と国民統合、時間軸・空間軸と世界の一体化は主要な出題テーマとなっており、世界の一体化に関連して、16～17世紀の銀の大量供給に関連する問題もめだっていた。

### 2 国際秩序と人権に関する問題

一橋大学の第2問は、問題文中でブラック・ライヴズ・マター運動に言及した上で、「奴隷を解放した側からではなく、解放された側、すなわち、元奴隷や黒人社会、アフリカ各国の側からみた場合、奴隷解放とその後の解放された黒人に対する政策は、どのように評価することができるか」を400字以内で論じさせる問題であった。同様に、大阪大学外国語学部の第1問は、ブラック・ライヴズ・マター運動の先駆と考えられる事件を紹介した上で、アメリカ合衆国の黒人問題の変遷を300字程度で論じさせる問題であった。名古屋大学第3問の間6では、60字以内でシェアクロッパー制を簡潔に説明させる問題が出され、高崎経済大学経済学部の第2問では、解答としてシェアクロッパー制が要求された。このほか、東京都立大学第3問でも、ラテンアメリカの奴隷制度の盛衰が250字以内の論述問題として出題された。

また、東京大学の第1問(2)は、1964年の国連貿易開発会議の発足に際しての国連事務総長ウ＝タントの演説を資料とした問題である(例題1)。東京大学が公表した出題の意図では、「歴史的な視点から肉づけしつつ、

### ■例題1 2024年度 東京大学：第1問(2)

資料部分引用 (発展途上) 地域は実際には発展していないか、あるいは十分な速さでは発展していません。程度はさまざまですが、深刻かつ持続的な低開発の状態に苦しんでいます。(中略) 政治的な解放が得られても、それにともなって、期待どおりの経済的な進歩が生じるわけではないのです。

問(2) 演説で述べられている経済的な問題は、どのような歴史的背景をもち、その解決のため1960年代に国際連合はいかなる取り組みをおこなったのかについて、5行以内で記述せよ。

世界の経済構造について説明してほしい」としている。『新詳 世界史探究』(以下、『探究』)では、p.329に「南北問題の出現と国際分業体制への批判」の項目で詳細な記述があり、同ページの「SDGsを考える世界史 南北問題は正の取り組み」のコラムもあるので、参考になるだろう。また東京大学第3問では、ポストコロニアル研究を代表する著作『オリエンタリズム』の著者として、サイドを答えさせる問題が出題された。『オリエンタリズム』は『最新世界史図説 タペストリー二十二訂版』(以下、『タペストリー』)にキーワードとして紹介され(p.197)、サイドについても言及されている。

その他、東京外国語大学の第1問では、アジアでの戦争と冷戦の関係が400字以内の論述問題で問われていた。その他の今日的な問題としては、パレスチナ問題が、九州大学、信州大学、東京都立大学などで出題された。

### 3 図版・資料読解を要求する問題

九州大学の第1問は15世紀から20世紀の絵画と政治・社会の結びつきを550字以内で問う論述問題であった。「ゲルニカ」「ヴィーナスの誕生」が図版として示され、「バロック美術」、「立体派」、「ドラクロワ」、「ワトー」、「印象派」と美術史に関する用語が指定語句となっていた。『タペストリー』の「ルネサンス①」(p.158～159)、「17・18世紀のヨーロッパ文化②」(p.178～179)、「近代市民と文化」(p.210～211)、「20世紀の文化」(p.267)を参照されたい。

前述の**東京大学**第1問も、資料読解を要求する問題であった。**一橋大学**の第1問は、中世神聖ローマ帝国の都市の性格を、提示された資料の読解から述べることを要求する問題であった。**大阪大学**第3問では、孫文の「大亜洲主義」講演が資料として用いられた。**北海道大学**の第3問では、90字以内で大躍進政策を問う論述問題で、1990年代の中国の人口ピラミッドのグラフが使用されていた。

## 4 「世界史の中の日本」に関する問題

今年度も「世界史の中の日本」に関連する問題がめだつた。**京都府立大学**では、福沢諭吉を解答として要求する問題が出題された（例題2）。

### ■例題2 2024年度 京都府立大学：第1問問21

1882年、朝鮮では開化政策への不満を懷く旧式軍隊が反乱を起こした。この反乱鎮圧を契機として、朝鮮における清の影響力が強まると、急進的な開化派であった（㉔）は、㉕日本と結んでクーデタを起こしたが、清軍によって鎮圧され、朝鮮における清の勢力が強まった。

問21 下線部（㉕）と関連して、こうした朝鮮の情勢に失望し、『時事新報』に脱亜論を著し、朝鮮と清との連帯が困難であるため、日本は独力で西洋を目標とすべきと論じた人物を記せ。

この点について、『探究』では、「甲申政変と日本の脱亜論」のコラム（p.241）で、甲申政変を機に福沢諭吉が「脱亜論」を発表したことが示されている。日本を含めた近現代の東アジア史に関連する問題としては、**京都大学**第1問で300字以内の論述問題として、「16世紀末から19世紀末にいたる朝鮮と中国の関係の変化」が問われた。この問題では、朝鮮において清の乾隆帝期にも明の「崇禎」の元号が用いられていたことが示唆され、「小中華」思想に言及することが求められていた。**筑波大学**第4問は、「17世紀半ばから20世紀半ばまでの台湾の統治と対外関係」を400字以内で論じる問題であり、指定語句には「台湾出兵」「下関条約」「サンフランシスコ講和会議」が含まれていた。前述の**大阪大学**第3問は、孫文の講演の「これから、世界の文化の前途に対して、いったい西方覇道の手先になるのか、あるいは東方王道の楯や砦となるのか、ほかならぬあなた方日本国民がじっくりと検討し、慎重に選択されることにかかっています。」に注目して、第一次世界大戦後の世界情勢・アジア情勢を200字程度で論じる問題であった。

近現代以前についても、**大阪大学**第1問で唐の高宗の時代の朝鮮半島諸国間の戦争を100字程度で論じる問題が、第2問で、17世紀の日本、オランダ、バタヴィ

アの関係性に関連して100字程度で論じる問題が出題された。**一橋大学**第3問は、唐滅亡に伴う東アジア世界の政治的・社会的変動を問うもので、日本についても国風文化の発展から律令体制の崩壊と鎌倉幕府の成立に言及することが求められていた。

## 5 国家・宗教・国民統合に関する問題

主権国家・国民国家が出現する近現代以前に政治権力と宗教、政治権力と人民はどのように関係していたのか、国民国家はどのように領域内の人々を統合しようとしたのかというテーマの問題が、近年の入試では多く出題されてきた。**名古屋大学**は第1問でイスラーム世界の統治のあり方を出題し、第4問では中国で文化人が官僚として統治にあたってきたことを450字以内の論述問題で問うた。政治権力とキリスト教に関する問題も頻出であり、**東京大学**の第2問や**京都大学**の第3問、**京都府立大学**の第1問でキリスト教とローマ帝国、キリスト教とフランク王国の関係が出題された。**北海道大学**の第1問では、**京都大学**、**東京大学**、**東京外国語大学**などの各大学で近年出題されてきた「オスマン帝国と国民統合」がテーマの問題が出題された。

## 6 時間軸と空間軸・世界の一体化に関する問題

特定地域に視点を置く時間軸の問題としては、**愛知教育大学**第2問がイベリア半島、**筑波大学**第1問がメソポタミアの論述問題を出題し、**京都大学**第4問Aは、問題文が黒海をテーマとするものであった。空間軸と世界の一体化については、**東京都立大学**第3問でマゼランの航海の目的と達成したことを80字以内の論述問題で出題し、**名古屋大学**第2問でアカプルコ貿易、**筑波大学**第3問では、海洋国家としてのオランダの台頭から没落までが問われた。

## 7 来年度の展望

歴史総合の影響もあって、古代から現代の歴史の大きな枠組みと、世界の一体化、主権国家と国民国家といった主要なテーマの理解を問う問題や、「世界史の中の日本」を問う問題の出題は続くだろう。世界史探究になることで、資料読解問題の増加も予想される。ブラック・ライヴズ・マター運動や、ポストコロナルなど、支配された・従属させられた側から歴史を見る問題は、来年度も注意したい。



# 2024年度 私立大学入試

## 世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

### 1 私立大学入試の傾向と対策

2025年度、歴史総合・世界史探究としての初めての入試が行われる。しかし、これまでの特徴的な出題傾向として、「世界史の中の日本」「ジェンダー」「グローバル化」「現代社会の諸問題」といったテーマがあげられ、また、「時間軸・空間軸」をふまえて、「史料・図版・グラフなど」を用いて出題する形式が増えている。その中には、歴史総合・世界史探究の先駆となりうる出題も含まれる。

### 2 植民地主義と大衆に関する問題

本稿では、図版を扱った入試問題を2題取りあげる。まずは、広告として用いられた図版を通じて、植民地主義の欺瞞<sup>ごまか</sup>を扱っている問題である。広告・宣伝は、歴史総合において重要な視座の一つである大衆とも関連するテーマであることから注目したい。

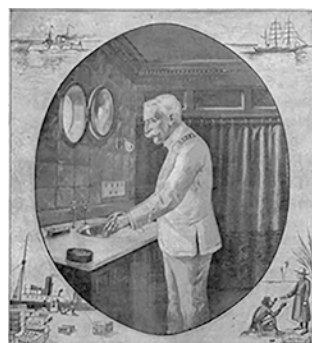
ここでは、図版と宣伝文句が解答のヒントとなって

#### ■例題1 2024年度 立教大学：2月12日〔1〕

弱体化したアフリカは、19世紀から20世紀にかけてヨーロッパ諸国による植民地支配の対象になった。その際にヨーロッパ諸国が採用した統治の手法はアフリカの各地に大きな影響を及ぼした。第一に民族の「創出」である。河川流域を中心に数多くの国家が発達していたアフリカは、ヨーロッパ諸国によって大きく再編され、そこで新たに創出された民族を単位に20世紀に国民国家へと細分化された。第二に、宗主国が住民の一部を支配の代理人にし、かれら代理人に特権と引き替えに主権を譲渡させたことで、住民の大部分はアフリカ各国の政治に参加できなくなった。住民間の分断である。第三に、この植民地化がしばしば<sup>16)</sup>文明化の論理をまとうことで、住民間の分断は複雑になった。ヨーロッパ人の手助けで権力を得たアフリカ人「首長」とその協力者たちは、自らを文明の担い手と位置づけ、それ以外のアフリカ人批判者たちを野蛮な人びとと見なした。こうした分断・対立のもとで人びとの協働は容易でなかった。1960年代の独立の時代を経て現在もっとも成長が期待される地域となったアフリカは、いままこうした困難から自由ではない。

(※当該問題以外に関わる下線、問題は省略)

16. これに関連して、1899年にイギリスの石鹸会社ピアーズは、以下の図像と文面からなる広告を出した。



白人の（イ）のための第一歩は、清潔さの道徳的美点を教えていくことにある。ピアーズ石鹸は、世界諸国の教養ある人びとのなかでもっとも愛顧されているだけでなく、文明の進展とともに世界の（ロ）していく強力なものである。実にそれは理想的な手洗い石鹸なのである。（原文は英語）

当時のヨーロッパ世界の文明観をうかがわせるこの広告で、この企業は自社商品の販売をいかなる論理で正当化したのか。広告図を見て、広告文面にもうけた空欄（イ）・（ロ）にあてはまる語句としてもっとも適切な組み合わせを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

- |    | （イ）        | （ロ）       |
|----|------------|-----------|
| a. | 経済的繁栄を達成する | 貧しき隅々を工業化 |
| b. | 健康を増進していく  | 豊かな隅々を獲得  |
| c. | 責務を果たしていく  | 暗き隅々を啓蒙   |
| d. | 領土を最大化する   | 危険な隅々を制圧  |

正解：c

いる。図版中で扱われているアフリカ人、宣伝文句中の「清潔さの道徳的美点」「世界諸国の教養ある人びと」「文明の進展」といった表現に注目しつつ、帝国主義の時代にヨーロッパ列強が一方的に「暗黒大陸」とみなしたアフリカを啓蒙することを白人の責務とする考え方が広まったという歴史的理解をふまえて解答を選ぶことになる。また、問題文では単に帝国主義期を扱うだけでなく、1960年代の独立後もアフリカが困難を抱えていることへの指摘がある。こうしたポストコロニアルの視点は、以後も出題されるであろう。

『最新世界史図説 タペストリー二十二訂版』（以下、『タ



ペストリー』)のp.217や、『明解 歴史総合』(以下、『歴史総合』)p.54には、図版として「文明化の使命」を語る新聞のさし絵が示されている。その上で『タペストリー』では、ヨーロッパ人には、文明的に劣ると一方的にみなしたアジア人やアフリカ人を文明化する使命があると主張し、植民地支配による経済開発が現地住民の生活を向上させるという主張が広く支持されていたこと、そのことが植民地支配を正当化する論理となったことの指摘がある。

また、世界史探究を学ぶ土台となる『歴史総合』p.54には、「未来へ活かす歴史 植民地支配と人種主義」という形でコラムがあるほか、『明解歴史総合図説 シンフォニア』p.78では、「平等・格差の観点から振り返ろう」という課題が与えられ、「フランスの政治は、最終的に人権宣言を尊重する(共和・絶対王)政となったが、文明を広めるという理由で植民地の(拡大・自治)を図るなど、政策には人権宣言と矛盾する点もあった。」という演習が設定されている。

このほか、帝国主義と結びついた広告の例として、『新詳 世界史探究』(以下、『探究』)p.232では、イギリスで発行された紅茶の広告の図版が扱われている。図版からイギリス人や現地の人々を読み解きつつ、茶の輸送手段としての鉄道についても考察させている。また、『探究』p.256では、植民地主義と人種主義を扱う中で、エルジェ作の『タンタンのコンゴ探検』という漫画を通じて、ヨーロッパ人のアフリカに対する先入観を考えさせつつ、「視点を変えて 植民地研究の諸潮流～収奪論と近代化論」というコラムを通じて、植民地支配をめぐる多様な観点を提示している。こうした学びは、これからいっそう求められることになるだろう。

### 3 「世界史の中の日本」に関する問題

次に、「世界史の中の日本」という観点を問題文中で扱いつつ、図版を扱った問題である。ただし、単に図版の作者や作品名を問うのではなく、図版と時間軸とを関連させた出題であることから取りあげた。

慶應義塾大学経済学部については、図版問題以外にも注目点がある(例題2)。ここ数年間、大問1の冒頭の問題文が日本史と同一であり、一部の出題内容も重複している。これは、歴史総合を見据えた出題と想定される。問題文で「世界史の中の日本」という視点が組み込まれているのは、このことが大きな理由であろう。

本問は、単に作品の作者や作品名を知っているだけで

### ■例題2 2024年度 慶應義塾大学：経済学部[1]

近代建築に多大な影響を与えたル＝コルビュジエは、1887年にスイスで生まれ、のちにパリを拠点に活躍し、1965年にフランスで亡くなった。

2016年、ル＝コルビュジエの17の作品が「ル＝コルビュジエの建築作品——近代建築運動への顕著な貢献——」としてユネスコ世界遺産に登録された。～略～

その17の作品の1つが日本の国立西洋美術館である。同美術館は、松方幸次郎がヨーロッパで収集した作品の受け入れと展示のための美術館として、ル＝コルビュジエが建築設計を担い、1959年に開館した。

**問4** 下線部Dの人物について述べた次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

松方幸次郎は1866年1月に鹿児島で生まれた。アメリカで法律を学び、ヨーロッパでも学んだのち、川崎造船所初代社長になった。松方は、日本に西洋美術を広めるため、ヨーロッパでα絵画や彫刻などの美術品の収集を積極的に行った。

① 下線部αに関連して、次のa～cの作品が発表された年代の古い順に左から並べたものとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

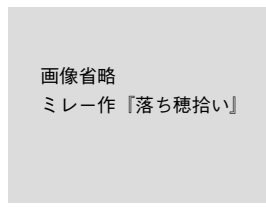
解答は解答欄〔(2)〕に、その番号をマークしなさい。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. a b c | 2. a c b | 3. b a c |
| 4. b c a | 5. c a b | 6. c b a |

a



b



画像省略  
ミレー作「落ち穂拾い」

c



〈出典〉

a、c：写真提供 ユニフォトプレス

正解 : 5

は解答できない。例えばバロックなどの文化的潮流とその時代を学習していることが求められているため、普段から文化史でも丸暗記にならない学習が求められる。『タペストリー』ではp.178にレンブラントの「夜警」、p.191にゴヤの「1808年5月3日マドリッド市民の処刑」が掲載されているほか、「歴史と芸術」に「ナポレオンを嫌悪した芸術家たち」というコラムがあり、その一方でp.190にはナポレオンを賛美したダヴィッドの「ナポレオンの戴冠式」も扱われている。ミレーの絵画については、『探究』p.245で「落ち穂拾い」、『タペストリー』p.211で「晩鐘」が掲載されており、あわせて学習すると効果的だろう。

# 2024年度 大学入学共通テスト 日本史Bの分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 中垣 秀作

## 1 はじめに

共通テストも4年目を迎え、この間の傾向が定着してきたようである。高校生の主体的な学びをふまえた場面設定が3年連続で大問6問中5問、会話形式は1問減ったが大問3問と半数を維持し、また、何らかの形で思考力・判断力を問う設問は、昨年度に比べ若干減ったとはいえ全体の6割5分を占めていた。

## 2 分量・構成・出題形式

分量はマーク数32、時代構成は前近代と近現代の割合がほぼ6:4で、昨年度までと同様であった。出題形式は、文章正誤問題が最も多く、全体の6割を占めた。ついで年代配列問題と空欄補充問題が各約1割5分と続き、短文と語句・短文の組み合わせ問題が約1割であった。空欄補充問題が微増傾向にあるが、資料の読み取り内容を空欄にするなどの工夫がみられ、空欄補充問題でも思考力・判断力を問おうとする姿勢が継続している。

## 3 共通テストの特徴的傾向

ここでは、本試でみられた特徴的傾向を、河合塾が集めたデータも駆使しながら具体的にみていく。

### (1) 多様な資料(史料・図版・統計表など)の利用

共通テストでは、史料・図版・統計表などの資料を利用した設問が実に多く出題されている。**例題1**は、戦国・織豊期の史料を読み取らせる設問であるが、昨年度、1割弱という最も低い正答率を記録した設問(2023年度本試 **14**)と似た傾向をもつ設問ということで取りあげた。史料1・2ともに受験生にとっては初見の史料であり、(注)を手がかりに読み解いていく必要がある。Xは、(注3)に着目できれば誤文と判断できる。Yは、素直に読めば、座の特権を認めている内容なので誤文と判断できるが、「織田信長の命令」から楽市的な内容か、との先入観をもつと判断を間違える。こうした先入観を

### ■例題1 2024年度 共通テスト本試：第1問 問3 **3**

**問3** 下線部◎に関連して、次の史料1・2は紙などの物資流通を担っていた商人に対して出された命令である。この史料1・2の内容について述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **3**

史料1 戦国大名六角氏の命令

紙商売の事、石寺新市<sup>(注1)</sup>の儀は楽市たるの条、是非に及ぶべからず<sup>(注2)</sup>。濃州ならびに当国中<sup>(注3)</sup>の儀は、座人の外商売せしむるにおいては、見相<sup>(注4)</sup>に荷物押さえ置き注進致すべし。

(「今堀日吉神社文書」)

(注1) 石寺新市：戦国大名六角氏の居城である近江国観音寺城の城下町。

(注2) 是非に及ぶべからず：あれこれと議論してはならない。

(注3) 濃州ならびに当国中：美濃国と近江国。ここでは近江国の石寺新市は含まれない。

(注4) 見相：見かけること。見つけること。

史料2 織田信長の命令

大滝神郷<sup>(注5)</sup>紙座の事

一 上は木目を境、下は浅水の橋を境、東は境目、西は海端を境、前々の如く諸役あるべからず。

(「大滝神社文書」)

(注5) 大滝神郷：越前国大滝神社の所領。

X 史料1によると、六角氏が治める近江国・美濃国には楽市令が出され、座の特権を強要しようとする商人の荷物は没収されることになっていた。

Y 史料2によると、織田信長は、大滝神郷紙座が越前国内に有していた税免除の特権を撤廃した。

- |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X 正 | Y 正 | ② X 正 | Y 誤 |
| ③ X 誤 | Y 正 | ④ X 誤 | Y 誤 |

ひっくり返す判断を求める設問が2年続いた。本問の正答率は3割強と低めではあるが、昨年度ほどにはなかった。とはいえ、史料読解演習の指導の際などには、受験生に注意をうながしておきたい。**例題2**は、永仁の徳政令に関連した二つの史料の読み取りを求めた設問で、今年度の本試全32問中、2番目に正答率が低かった(約28%)。正解は③だが、②の誤答が比較的多く、aとbの判断を間違えた受験生が多かったことを示している。会話中に「鎌倉幕府の出した法令は主に御家人を対象とした」とあるので、「本主が誰であっても」としているaは不適切と判断できるのだが、下線部より前の会話からの判断になるので、とまどった受験生が多かったと思う。

■例題2 2024年度 共通テスト本試：第3問問2 13

問2 下線部⑥に関連して、永仁の徳政令（史料1）と、1345年に山城国下久世荘の名主・百姓が永仁の徳政令の適用を荘園領主の東寺に求めた申状（史料2）に関して述べた後の文a～dについて、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 13

史料1

一 質券売買地（注1）の事 永仁五年三月六日  
右、地頭御家人買得の地においては、本条（注2）を守り、二十か年を経るは、本主（注3）取り返すに及ばず。非御家人ならびに凡下（注4）の輩買得の地に至りては、年紀の遠近を問わず、本主これを取り返すべし。（「東寺百合文書」）

（注1）質券売買地：質入れや売買した土地。

（注2）本条：ここでは御成敗式目第8条のこと。

（注3）本主：もとの持ち主（売主）。 （注4）凡下：庶民

史料2

山城国下久世荘の名主・百姓が、荘園領主の東寺に申し上げます。かつての買主の子孫と称する者が、われわれが取り戻した売却地の返還を求める訴訟を起しました。これはとんでもない言いがかりです。なぜならば、永仁五年三月六日に鎌倉幕府が立法した徳政令と、同じく七月二十二日に幕府が六波羅探題へ送った指令書には、「非御家人ならびに凡下の輩の質券売買の地においては、年紀の遠近を問わず、売主これを取り返すべし」と見えるからです。どうか不当な訴訟を棄却してください。（「東寺百合文書」大意）

- a 史料1は、本主が誰であっても、年限を問わず、非御家人や庶民が買い取った土地を取り戻すことができたと規定したものである。  
b 史料1は、本主が御家人であれば、年限を問わず、非御家人や庶民が買い取った土地を取り戻すことができたと規定したものである。  
c 史料2は、下久世荘の名主・百姓が、史料1の規定を読み換え、訴えを退けるよう主張したものである。  
d 史料2は、下久世荘の名主・百姓が、史料1の規定に基づき、訴えを退けるよう主張したものである。
- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

(2) できごとの因果関係や歴史的意義を問う

■例題3 2024年度 共通テスト本試：第6問問6 31

問6 下線部①に関連して、敗戦後に日本がアメリカとの間で結んだ次の条約・協定Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 31

Ⅰ アメリカが「琉球諸島」の権利を放棄する協定

Ⅱ アメリカから経済的援助を受けるとともに、自衛力を増強する義務を負う協定

Ⅲ 在日アメリカ軍の「極東」での軍事行動に関する事前協議を定めた条約

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ  
④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

例題3は年代配列問題である。この形式は総じて正答率が低く出る傾向、つまり多くの受験生が苦手とする形式といえる。今年度の本試では5問（昨年度も5問）出題されている。この形式の克服は、高得点をねらう上で不可欠といえよう。本問を取りあげた理由は2点ある。まずは、年代配列問題の中でも正答率が低め（約32%）という点、次に共通テストになってからの特徴といえる歴史用語を極力使わずに作問している点である。Ⅰ～Ⅲいずれも歴史用語を極力使わずに作られており、抽象度が高い分、難度が上がっている。誤答は⑥に集中してお

り（約40%）、正解を上回る解答率であった。これはⅡとⅢの時期判断を間違えたことを示している。本問のような作例をもとに、抽象度の高い内容を、歴史用語におきかえていく訓練が必要だと思う。

## 4 対策と展望

### ◆資料問題の演習量の確保

新課程になっても、さまざまな資料（史料・図版・地図・統計表・グラフ）を利用した問題の出題が予想される。対策としては、とにかく「慣れる」ことが重要で、そのためには共通テストの過去問などで演習量を確保したい。また、『図説 日本史通覧』の「巻頭特集」はさまざまな資料の読解の方法などをていねいに解説しており、指導の際に有用である。

### ◆「知識」を強化する必要

共通テスト模試などのデータからも知識型の問題の正答率が低い傾向があることがわかっている。本試でも知識型の問題が一定程度は出題されており、思考力・判断力養成の前提としても知識を身につける必要性がある。旧センター試験の過去問なども利用して、知識面の強化をはかりたい。

### ◆『歴史総合、日本史探究』について

いよいよ2025年度から新課程入試が始まる。配点や構成は、おそらく2022年秋に公表された試作問題の通り、歴史総合が大問1・配点25点、日本史探究が大問5・配点75点となると思われる。気になるのは歴史総合の問題の構成や難易度である。試作問題をみる限りは、日本史探究の知識が身につけていけば、歴史総合はこわくないが、試作問題とは異なる傾向で出題される可能性もあるため、共通テスト模試では、さまざまなタイプの問題を出題し、分析を試みている。現段階で言えるのは、世界史分野の知識も必要な問題の正答率が総じて低いこと、日本史分野の問題であっても、それほどできていないこと、である。高校1年段階での学習なので、身につけていない受験生が多いのであろう。歴史総合で思わぬ苦戦を強いられる可能性もある。日本史分野の問題は、近現代の学習が進んでいけば克服されると思う。世界史分野については、出る出ないも含めて判断が難しいが、日本史分野の学習の際に、国際関係に留意した学習を組み込めれば、ある程度までは克服できるであろう。また、実戦力の養成は、本試がない科目ではあるが、共通テスト日本史Aおよび世界史Aの近現代史部分の過去問演習などにより対応可能と思われる。



# 2024年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 平野 岳美

## 1 国公立大学入試の分析

一般に入試で地歴を課している国公立大学は少なく、たとえ課していても文学部を中心に一部の学部・学科のみに課している場合が多い。したがって受験生数が少なく、採点の負担が少ないということもあり、論述問題を出題するところがほとんどである。自分で文章を書いて説明させることで、思考力・判断力・表現力を測ることができるからであろう。

ただ、出題形式はさまざまで、大きくは、論述問題中心の大学と単答問題との併用型の大学に分かれる。前者では東京大学・一橋大学・筑波大学・名古屋大学・大阪大学などがあげられ、後者では北海道大学・京都大学・九州大学などがあげられる。

後者の大学で問われる歴史用語は、難関私大に比べて基本的な用語が多く、難関大学だからといってやたら細かい用語を覚える必要はない。しかし、一方で、選択問題は少なく、正確に漢字で書ける知識が要求されている。また、正誤問題が少ないのが特徴的で、これらは共通テストを受験していることが前提であることの影響であろう。

加えて、史料・図版・表・グラフを読み取らせて解答させる問題も多い。論述問題でもこうした形式で論述させる問題は多く、なかには読み取りにより教科書知識以上の思考力を要求する問題もみられる（東京大学・名古屋大学など）。

次に2024年度の国公立大学入試における出題テーマの特徴を論述問題を中心にみていきたい。

### (1) 原始・古代史のテーマ

今年度の国公立大学入試では、昨年度ほとんどなかった原始時代からの出題がやや復活した。原始時代は問えるテーマが限定されていることもあって、例年出題例は多くないが、今年度は複数の大学で出題がみられた。そのなかでも注目すべきは京都大学第4問 問(1)で、**例題**

1のように縄文時代の遺物の図版を四つあげ、その図版の遺物を具体的な根拠として縄文時代の生業とその特質を問うている。京都大学の論述問題で原始時代を扱ったのは2012年度に縄文時代から古墳時代の始まりまでの墓や墓地の変遷を問うて以来であり（原始時代からの出題は2007年にも出題されており3回目）、また、図版を使って論述させる出題は、共通一次試験開始後二次試験に日本史が復活して以来初めての形式である。

#### ■例題1 2024年度 京都大学：第4問問(1)

図a～dに示した遺物を具体的な根拠として示しつつ、縄文時代における生業とその特質について述べよ。(200字)

- a 石鏃    b 石錘    c 釣針（骨角器）  
d 石皿とすり石（図版省略、図版には名称はなし）

古代史からの出題としては、今年度は奈良時代の政治・軍事関係の問題が多かった。北海道大学第1問Aは古代の三関の機能を、新潟大学第1問は古代の宮都を、名古屋大学第1問では古代・中世の軍事動員を、千葉大学第1問は奈良・平安期の藤原氏を、九州大学第1問でも古代の宮都をテーマとして扱っている。

### (2) 中世史のテーマ

昨年度と同様、今年度も中世史からの出題はやや少なめで、文化史からの出題がやや多かった。東京都立大学第2問では、**例題2**のように、Aで院政期を、Bで室町時代を扱い、それぞれの文化の特徴を問うている。

#### ■例題2 2024年度 東京都立大学：第2問

（問題文省略）

問1 Aの時代の文化は、それまでの貴族文化とは異なる要素が見られるようになった。それはどのようなものであったか。後白河上皇が編んだ書物の名称を含め、80字以内で説明しなさい。

問2 Bに記された文化の特色とその背景について、下線部の具体的な名称、農村における人々の生活のあり方と共通する側面も含めて120字以内で説明しなさい。



文化史の論述問題は、問1のようにその文化の特徴をストレートに問う問題もあるが、多くは、その時代の社会経済や外交、政治などとの関連を問うものであり、問2は後者に当てはまる。論述対策ではテーマごとの理解も必要だが、その時代全体の特徴をつかみ、政治・外交・社会経済・文化の関連・因果関係を押さえる学習が必要である。また、実はこの問2は、「集団で楽しむ文化」という特徴とその背景を答えさせる点で、昨年本欄で紹介した2023年度千葉大学第2問問5と同視点なのであり、志望大学ではない他大学の過去問演習が重要であることを教えてくれる。東京大学第2問も同様で、エピソードを紹介した文章から読み取らせるという独特の形式で、東大寺再建に関して問うているが、この設問の視点は、少し古いが2005年度名古屋大学第2問問1・問2とはほぼ同じである。名古屋大学の問題は問題文と史料で誘導をかけるものであった。一見特殊テーマに見える問題ですら過去問と視点が重複してくる場合もあるので、論述対策として過去問研究は大学を問わずやっておくとよいだろう。

そのほか、外交・貿易に関する問題もめだち、名古屋大学第2問は前半で日宋・日元貿易を扱い、九州大学第2問は銅と銀をテーマにしつつ、中世の貿易を問うている。また、大阪大学第2問は蒙古襲来による軍事・支配体制の変化を問い、北海道大学第2問は『蒙古襲来絵詞』を示してモンゴル襲来を問うている。この問題については、絵巻物の分析にもとづく設問があるので後述したい。

### (3) 近世史のテーマ

近世史では昨年度に引き続き今年度も外交史からの出題がめだった。東京大学第3問は鎖国過程をテーマとした問題であり、千葉大学第2問は秀吉の朝鮮出兵とその後の日朝関係や江戸時代初期の対外関係を問うている。東京都立大学第3問問1は鎖国政策の目的を問う問題であった。

また、おもしろい一致としては、名古屋大学第3問では西尾藩をテーマにして近世大名の諸相を問うているが、九州大学第3問では唐津藩をテーマにしている。ともに大学所在地の近隣藩を扱ってはいるが、そこから大名と幕府の関係や幕府の政策を問うものになっている。とくに名古屋大学第3問は西尾藩の石高が変遷していることを表で示し、その理由を問うたり、その表をヒントに、西尾城下図を示して城下の拡大のタイミングを問う、思考力を問う問題になっている。

そのほか、幕府政治を問う問題も多く、先述した九州

大学第3問問8は家綱の浪人増加対策を、一橋大学第1問は城下町の町人地の構造や享保期の都市対策を、大阪大学第3問は田沼の経済政策を、新潟大学第3問は飢饉をテーマとして寛政の改革の都市対策をそれぞれ問うている。こうした問題もただ事実を説明させるものではなく、**例題3**の新潟大学第3問問4のように、その政策が何を目的に行われ、どのような効果が期待されるのか理解できているかを問うている。

### ■例題3 2024年度 新潟大学：第3問問4

下線部(c)の政策(人足寄場の設置：筆者注)は、なぜ都市の治安維持に繋がるのか。30字以内で説明せよ。

決して難問ではないが、字数が少ないこともあって、正確に理解していないと答えられない問題である。

### (4) 近現代史のテーマ

近現代史は出題量が多く、テーマ也多岐にわたるが、やはり、今年度も「民主主義」を意識させる「民衆・民衆運動」や「戦争・ファシズム」などのテーマが多かった。北海道大学第4問は4本の史料を使って、日清戦争、国際連盟加盟、昭和初期の文化、安保闘争を扱った。一橋大学第2問は保安条例、治安警察法、治安維持法の史料を使い、それぞれの時代背景などを問うている。愛知教育大学第2問は大日本帝国憲法の制定や特質を扱い、千葉大学第3問は五・一五事件をテーマにその後の政治過程を問うた。東京都立大学第4問問1は立憲政友会の成立から解党までの過程を出題している。例年の繰り返しになるが、近現代史はとくに政治・経済・外交を分離することなく、常に因果関係を意識して連動させながら学習していく必要がある。

戦後史については今年度はやや少なめで、1980年代以降の出題も見られなかった。一橋大学第3問問2で第一次オイルショックと第二次オイルショックの違いを問うたのが、時代的に一番新しい部類であり、筑波大学第4問は高度経済成長期の国民の生活や意識の変化、新潟大学第4問は占領政策の転換と朝鮮戦争、名古屋大学第4問Cは戦後教育の逆コース、九州大学第4問は戦後の占領期の政治、東京都立大学第4問問2は55年体制の成立と崩壊をそれぞれ出題している。

### (5) 史資料を使った問題への対策

先述したが、国公立大学の入試問題では、史資料を使った出題が多く、文字資料を筆頭に、図版資料、表、グラフなどの読み取りを前提に論述させる。今年度も各大学で出題されている。とくに先述した**例題4**の北海道大学第2問は『蒙古襲来絵詞』の分析により、改変が行われ

#### ■例題 4 2024 年度 北海道大学：第2問 問2

(図省略)

(1)図A・図Bを比較すると、弓や長槍をもつモンゴル兵3名(え)の有無がもっとも大きな違いとしてまず目を引く。なぜ、モンゴル兵3名(え)は最終的に描き加えられたのだろうか。この絵巻の主人公とされる竹崎季長、あるいは彼を顕彰したい人間にとっての利点を考慮しつつ、50字以内で説明しなさい。

ていたことを指摘して復元案を示し、その改変の理由を説明させている。

もとの絵では竹崎季長の前にはモンゴル兵3名はおらず、後で描き加えられたものとする分析に基づき、なぜ描き加えられたのか考える問題である。竹崎季長の功績を誇示するためと容易に解答は想像できるであろうが、50字の解答にするには絵巻の順番が入れ替わっていることも含めて想像していく必要がある。こうした想像をはたらかせるには日ごろから絵画資料の読み取りの練習をしっかりとしておくことが必要だろう。『図説 日本史通覧』(以下、『通覧』)の巻頭3~18はこうした資料の読み解き演習であり、有効に利用できるものであろう。

## 2 私立大学入試の分析

私立大学で地歴を受験科目に課す大学は膨大であり、一部近世以降や近現代のみなどと範囲を限定している大学・学部があるが、基本的にはさまざまな時代・分野から出題される。したがって、原始から少なくとも1970年代までの基本的学習が対策のベースである。そのことを前提にして、今年度入試を中心に、最近の傾向として注目しておきたい点をいくつか指摘してみたい。

### (1) 1980年代以降の現代史

1970年代までの学習が基本である旨先述したが、ここ数年1980年代(以下、80年代)以降の現代史からの出題が増加している。とくに関東の私大でその傾向が顕著であり、そろそろ80年代は基本的学習の範囲に入れておいた方が無難になってきている。首相名も中曽根康弘までは必須になりつつある。例題5の早稲田大学法学部第4問がまさにそれを象徴する問題である。

選択肢とはいえ、大平正芳・鈴木善幸・中曽根康弘の順番がわかっていないと解けない問題である。また、鈴木善幸については、慶應義塾大学法学部第4問が彼に対するインタビュー記録を史料として扱った問題で、内容的にも鈴木善幸内閣までを扱い、設問10の選択肢の一部は2000年代を含む問題であった。同じく慶應義塾大学文学部第5問はプラザ合意以降の国際状況・経済状況

#### ■例題 5 2024 年度 早稲田大学：法学部第4問

(問題文前略)第2次石油危機に対処し、財政再建を目指したのは[E]内閣であった。その後の1980年の衆参同日選挙では自民党が安定多数を獲得し、[F]が内閣を組織することとなった。[F]内閣の後を受けた[G]内閣は、「戦後政治の総決算」をとらえて行財政改革や教育改革を推進した。

〔問〕

(設問略)

10 空欄E・F・Gに入る語の組み合わせとして正しいものはどれか。1つ選び、記号をマークしなさい。

(選択肢略)

を問う問題で、問8で、「バブル経済」発生のしくみについて論述問題で問うた。この問題は2017年度に同じ慶應義塾大学の経済学部で出題され、昨年度の名古屋大学でも出題されている。すでに論述問題の頻出テーマになりつつあるといいだろう。

とはいえ、まだ80年代後半以降はピンポイントで問われるので、そこを押さえておけばなんとかなるだろう。政治史では中曽根康弘内閣の政策、55年体制の崩壊など、経済史では貿易摩擦と農産物の輸入自由化、プラザ合意からバブル経済、平成不況など、外交史では湾岸戦争とPKO協力法以降の国際貢献、日米安保共同宣言と新ガイドラインおよびその関連法などが頻出テーマである。そのほか京都議定書などの環境問題や東海村JCO臨界事故などの原発関係の出題頻度が高い。関西でも小問レベルではあるが、関関同立大でちらほら90年代が出題されるようになってきている。油断なく取り組んでおきたい。

### (2) 蝦夷地・北海道史 琉球・沖縄史そのほか

蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史は例年出題が多い。今年度も慶應義塾大学法学部第3問が、3本の史料を使った琉球・沖縄史の問題であった。例年琉球・沖縄史を出題してきた早稲田大学では、今年度は教育学部第3問が近世の蝦夷地の問題であった。関西でも、立命館大学2月4日実施分第3問〔2〕で明治維新後の琉球・沖縄を、例題6のように関西大学2月5日実施分第2問(B)で戦後の沖縄史を、2月7日実施分第4問(C)で首里城の写真を示し、その歴史を問うている。

こうした蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の学習には『通覧』が有用である。中世・近世・近代・現代にそれぞれ【特集】が組まれており(現代は沖縄のみ)、詳しく、そしてビジュアルにまとめられているので整理しやすく、理解しやすい。

また、蛇足だが、立教大学2月9日実施分第2問では

■例題 6 2024 年度 関西大学：2月5日第2問

(B) 1945 年 4 月、アメリカ軍が沖縄本島に上陸すると、(中略) 6 月 23 日、組織的な戦闘は終了し、アメリカ軍は沖縄を占領した。この日は現在、沖縄県条例で「慰霊の日」と定められており、毎年、( 6 ) 市摩文仁の沖縄県営平和祈念公園で、沖縄全戦没者追悼式が開催されている。

第二次世界大戦後、沖縄は日本本土から切り離され、アメリカ軍の軍政下に置かれた。(中略) 翌 1955 年 8 月 6 日に ( 7 ) で第 1 回原水爆禁止世界大会が開かれた一方で、沖縄のアメリカ軍基地では核兵器の配備が進んだとされる。

1965 年からアメリカが ( 8 ) 戦争への介入を本格的に始めると、沖縄や日本本土はアメリカ軍の前線基地となった。沖縄では基地用地の接収やアメリカ兵による犯罪の増加もあり、祖国復帰運動が高揚した。1969 年 11 月に佐藤栄作首相はアメリカを訪問し、( 9 ) 大統領との日米首脳会談で「核抜き・本土並み」の沖縄返還に合意した。1971 年の沖縄返還協定の調印、翌年の協定発効によって沖縄の本土復帰は実現した。しかし、復帰後もアメリカ軍専用施設のほとんどが返還されなかった。

沖縄県の資料によれば、2021 年 3 月 31 日現在、沖縄県のアメリカ軍専用施設面積は同県総面積の約 8 %、全国のアメリカ軍専用施設面積の約 ( 10 ) % にも達する。

(語群省略)

小笠原諸島の歴史を扱っている。

災害史は、2011 年の東日本大震災以降、よく出題されるようになった。地震・火山噴火・飢饉などを扱った問題が多く、とくに近年は新型コロナウイルスの流行もあって疫病史も散見される。今年度は落ち着いてきているが、学習院大学文学部第3問が近代の疫病史を、同国際社会科学・法学部第5問が関東大震災以降の震災史を、関西学院大学2月6日実施分第2問が古代から織豊期の震災史を扱っている。こうした災害史はなかなかまとまった学習が難しいので『通覧』巻末の特集などを利用して確認しておきたい。

(3) 図版資料(彫刻・絵画・建築など)を使った問題

出題形式で注目されるのは文字資料ではない図版を使った問題である。例えば早稲田大学文学部第6問は毎年のように図版問題を出題している。一般に、図版を示して、作者名や作品名を答えさせる、逆に作品名や作者名を出して該当する図版を選ばせるという単純な問題も多く、有名な図版は一度は確認させておく必要がある。

また、共通テストでもみられるような、図版を示して読み取りをさせる問題もある。今年度では、例題7のように南山大学2月13日実施分A(二)問(10)で、「一遍

■例題 7 2024 年度 南山大学：2月13日A(二)

(図版省略)

(10) 下線部bについて述べた文として正しいものを、下記の㉗～㉚から選びなさい。

- ㉗ この市の開催場所は、現在の九州の福岡である。
- ㉘ この市では、瓦葺きの建物で商売がおこなわれている。
- ㉙ この市では、米などの多彩な商品が扱われている。
- ㉚ この市では、大原女が男に対して布を売ろうとしている。

上人絵伝」の福岡市の図版を示して、読み取りをさせる問題が出題されている。

こうした図版問題は日常的に確認・練習をしておく必要がある。国公立大学分析のところでも述べたが、『通覧』の巻頭の資料の読み解き演習が格好の練習の場を提供してくれている。

(4) 「歴史総合」「日本史探究」の影響

一昨年 11 月に共通テストの『歴史総合、日本史探究』の試作問題が公表された。しかし、今年度の入試問題を見る限り、昨年度同様、新課程科目の影響はまだそれほどみられない。「歴史総合」の世界史部分を出題すれば現状では範囲逸脱になってしまうし、「日本史探究」の教科書はまだ今年度の受験生は使用していないから当然反映されることはなかったであろう。ただ、上智大学2月6日実施分第1問では問題文で近代の世界史を扱った問題を出題している。設問は日本史の知識で十分解答できる問題であるが、「歴史総合」の準備と言えるかもしれない。また、共通テスト型の問題は増加しつつあり、今年度も早稲田大学教育学部第5問は共通テストによく見られる会話形式の問題文に史料を利用した読み取り問題で構成されている。会話形式はその文脈の中で「探究」の姿勢が織り込まれるものであり、今後、こうした形式の出題が増加する可能性がある。加えて、今年度も地図問題がかなり見られた。日本国内ではない場所を問う問題も散見されている。例えば早稲田大学教育学部第2問問4は寧波の位置を問うた。こうした問題も今後増加していく可能性は十分にあるだろう。『通覧』には地図資料も多く掲載されており、こうした学習にも有用である。日頃から地図資料に慣れ親しむことで、さまざまな地理的状況や位置関係、分布などを把握しておくとうまいだろう。そうすることで、地理的空間認識能力が向上し、上述したような地図問題への対応力を身につけることにつながるだろう。



# 2025年度資料集のご案内

## 新詳地理資料

### COMPLETE 2025

地理の基礎・基本から大学入試対策まで

地理総合も！地理探究も！この一冊でカバー



対応科目 「地理総合」「地理探究」 AB判／346ページ 別冊「地形図・白地図ワーク」32ページ付（教師用解答付）

①書籍版 定価：1,030円（税込） ②クラウド配信版 定価：990円（税込） ③セット版（書籍＋クラウド配信） 定価：1,500円（税込）

## 図説地理資料

### 世界の諸地域NOW2025

13年ぶりの大改訂！

地理総合に最適でビジュアルな

地誌資料集



対応科目 「地理総合」 AB判／282ページ 別冊「地形図・白地図ワーク」32ページ付（教師用解答付）

①書籍版 定価：1,020円（税込） ②クラウド配信版 定価：990円（税込） ③セット版（書籍＋クラウド配信） 定価：1,500円（税込）

## 明解 歴史総合図説

### シンフォニア 四訂版

日本と世界の関わりが見える！

資料の読み解きを軸に

楽しく学べる歴史総合資料集



対応科目 「歴史総合」 AB判／218ページ 『別冊史料』16ページ付

①書籍版 定価：850円（税込） ②クラウド配信版 定価：820円（税込） ③セット版（書籍＋クラウド配信） 定価：1,320円（税込）

## ライブ！公共 2025

新しい！わかりやすい！

池上彰監修の最新公共資料集



対応科目 「公共」 AB判／390ページ

①書籍版 定価：990円（税込） ②クラウド配信版 定価：980円（税込） ③セット版（書籍＋クラウド配信） 定価：1,480円（税込）

## 最新世界史図説

### タペストリー 二十三訂版

資料を読み解く力がつく！見やすい図解で完全整理！

大学入試対策に最適な世界史資料集



対応科目 「世界史探究」

AB判／398ページ

『別冊史料 解答・解説』36ページ・『別冊白地図作業帳』36ページ付  
定価：990円（税込）

## 図説 日本史通覧

資料読解力が身につく！日本史の整理ができる！

大学入試対策に最適な資料集



対応科目 「日本史探究」

AB判／426ページ

別冊『日本史重要史料207選・[考察解答][解説]』64ページ付  
定価：1,020円（税込）

※編集中のため、内容が一部変更となる場合があります。

〈本誌掲載の他社商標について〉QRコードは、株式会社デンソーウェブの商標または登録商標です。

地歴・公民科資料 **ChiReKo** 2024年度特別号

サクラサク入試分析 2024-秋- 地理 世界史 日本史

2024年10月4日発行

教授用資料

東京都千代田区神田神保町 3-29 (〒101-0051)

株式会社 帝国書院 発行人 佐藤 清

電話 03-3262-4795 (代)

<https://www.teikokushoin.co.jp/>

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024